

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

約

陸

阿部

平 上海
本省署
牧野外務大臣

大正二年三月廿一日 午後五時
有吉總領事

第二八号

宋教仁ハ昨夜北上ノ際滬寧鐵道ステーション
ニテ狙撃セラレ重傷ヲ負フ犯人ハ未タ逮捕
至ラス

右公使へ轉電済

受第二三六六號

電報

三月廿五日 午後四時十五分
上海 宋教仁

參謀總長宛 在上海 齋藤少佐
宋ノ暗殺者外嫌疑者縛ニ就クト黃ノ
直話

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調 報告

比暗 上海 大正二年三月廿六日午後二時五十分前二〇
 有吉總領事

第三〇号
 今廿六日孫逸仙と面談シタル所宋教仁暗殺事件ハ事頗ル重大ナリトシ昨朝飯滬以來受取りタル報道ニ依レハ其勢クトモ袁世凱ノ使喚ニ出テタルハ証據歴然タルモノアリ然モ其一派ハ之ヲ國民黨員中ノ所為ニ歸セシメントスルノ目算ナルハ数日来一部新聞紙ノ報道ニ依リテ認メラルヘキモ幸ニシテ関係者ノ捕
 上迄各老

傳セラレ証據書類モ押収セラレタル以上其真相明白トナルノ日遠キコアラサルヘント為シ徒来自分ハ他ノ批難ヲ排シテ袁ノ對シ十分ノ同情ト援助ヲ與ヘ来リタルハ御承知ノ通りナルモ袁ニシテ大統領ノ榮職ニ在リテ尚此種卑劣ナル手段ヲ執ルニ於テハ到底他ノ看過スル所トナラサルヘク將自分ニ於テモ最早一步モ反借シ能ハサル所ニ付昨日来電ノ有力者ト協議シテ能迄正當ノ手段ニ依リ世界ノ公議ヲ訴ヘ袁ヲ排斥センコトニ決意セリ即チ議會ハ豫

是ノ通り之ヲ招集セシメ出頭願ヲ彈劾シテ
之カ五場ヲ失ハシメン考ナリ而シテ若シ自党
ノ主張スル政党内閣主義ニシテ貫徹セハ大統
統ハ一ノフイギエアヘツドニ付何人ニテモ可ナル
ヘク場合ニ依リテハ国家ノ為自ラ之ニ當ルヘ
シト述ヘ國民黨ノ勢力ハ北方ニ於テ甚タ侮リ
難キモノアルニ付本件ハ獨リ南北乖離ノ原因
タルノミナラス北方ノ事態ニ於テモ紛擾ヲ免
レサルヘク何レモシテモ議會招集大統領選
舉ニ際シテハ更ニ憂フヘキ現象ヲ示スヘク日

本國政府ニ於テモ此際十分注意ヲ拂ハレ警戒
ヲ加ヘラレタキ旨懸談シ頻リニ時局ヲ憂慮
セルモノ、如シ尚同人ハ我邦ノ歡迎ニ對シ多
大ノ謝意ヲ表シ居タリ因ニニ宋教仁暗殺ノ
嫌疑者武士英ハ一昨廿四日佛國居留地警察署
署ニ之カ教唆者ト目セラル、共進會々長
應夔丞ハ同日各國居留地警察署ニ各逮
捕セラレ今日迄訊問ノ結果ハ疑ナキ犯人ト認
メラル御参考迄
右公使(轉電濟

金部暗部

受第二三六七號

電報

大正二年三月二十七日午後七時十五分
日接受

參謀總長宛 在北京 左木少將

上海ヨリ袁大總統へノ密電ニ依リ宋教仁一
派ノ國民黨員ハ二十二日秘密會議ヲ開キ今
回宋教仁ノ横死ヲ以テ袁世凱及趙秉鈞ノ方
寸ニ出テタルモノトシ死ヲ決シテ其復讐ヲ誓ヒ袁
趙兩名暗殺ノ為刺客五名及女刺客二名ヲ二十
三日津浦鐵道ニテ北上セムヘク決議セリト或ハ

恐慌時代ノ末ルナランカト思ハル、之レカ為政府
ハ津浦鐵道全線及京津間ニ數多ノ密偵ヲ
放ケ居レリ。官僚派タル共和黨、民主及國
民黨軟派ノ相互ノ間ニ政府黨組織ノ計畫成リ
總理ニ袁世凱ヲ協理ニ黎元洪ヲ列シ楊度、
梁啟超、蔡鍔、岑春煊、張謇、熊希齡等
其幹事ニシテ就中楊度、梁啟超其主ナル運動
者ナルカ如ク其中央集權ヲ主トセル宣言書ハ既
ニ梁啟超ノ手ニ依リ起草セラレ近ク發表ノ筈ニ

シテ國民黨中ニモ多數(約五十名)参加スル者
アルハク議會ニ於テ三分ノ二以上ヲ占メ得(キ見
込ナリト傳ヘラル果シテ然ラハ支那政界ノ大勢
一變シ表ノ位置益々堅固ナルニ至ルヘキモ宋教
仁暗殺事件ノ結果ハ國民黨ノミナラス其他
ノ者ニモ多ク現政府ノ使節ニヨリシモノト疑ヒ
アルヲ以テ之レカ為政界ニ意外ノ變化ヲ来スナ
キヤト察セラル

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調 報告 條約 決

南京農大臣三月廿八日 辰二
東京著

牧野外務大臣 船津領事

唯今内務司ノ談ニ依レハ宋教仁暗殺事件ニ関
シ過日來程都督上海、出張中ノ知應民政長モ
程ヨリノ密電ニ依リ今朝上海ニ赴キタリ多今
孫黃等ト本件ニ関シ疑議スル為ナラン脚考
考止

右在支公使及在上海総領事、轉電セリ

宗

大

受第二三八號

大正二年 月

日接受

電報

三月二十七日午後十時

秘 秘 參謀長官 在 高 高 日 蔭 外 佐

本日與倉司令官ト共ニ黃興ヲ訪問セシニ彼ノ密
話ニヨルハ宋教仁ノ暗殺ハ確ニ北京政府ノ直接命
令セシコト判然セリト頗ル激越ノ狀アリキ然ルニ紀
人ガ英佛租界ニ於テ捕ハレタルカ為メ北京政府ヨ
リ英佛領事ニ手ヲ通シ捕ヲ消シ中ナリト彼ハ若
シ此事ニ違フ有耶否耶ニ附セラルカ如キコトアラ

一 北 京 英 佛 租 界
二 宋 教 仁 暗 殺
三 黃 興 訪 問
四 蔭 外 佐
五 日 蔭 外 佐

ハ何卒日本領事ノ力ニヨリ人道問題トシテ天下
ニ公表セラル様盡カアリタシト懇談ニ彼レカ獲
タル證據ヲ示シタリ孫逸仙モ非事ニ怒リ居レリ
愚クニ將來一大問題トナル模様アリ此件ハ是非
極秘ヲ頼ムト因テ北京公使館附武官ハ打電
セス

大臣 次官 政務 通商
 上海 東京 大正二年三月廿九日 前 七五五
 牧野 外務大臣 有吉 總領事

在北京伊集院公使館旁五号
 朱教仁暗殺關係嫌疑者審理問題ハ多少重要
 ナル關係ヲ惹起スベクト存シタムニ付最モ本件
 ニ關係深キ英國總領事ノ意見ヲ質シタル處
 同總領事ハ来月曜日英國會審官立會ノ下ニ
 開カルル會審衙門ノ法廷ハ之ヲ公開トシ一應ノ
 審理ヲ終リタル後之ヲ支那側審判庭一切ノ証
 上迄存ス

據物件ト共ニ引渡スヲ得策トスベク而シテ同
 法廷ニ於テハ犯罪直接ノ關係者ヲ審理スルニ止
 マリ背後ノ背後迄詮索スルノ要アラサルベキモ
 被告ノ陳述等ニ依リ累々北京政府ニ及ホスコト
 アルモ亦已ムヲ得サルベシトレ尚佛國居留地警
 察ニ拘引セラルタル加害者ニ付シテハ佛國總領
 事ニ同様之ヲ審判庭ニ引渡スナラントノコトニ
 予飽進公明ニ處理スル意見ニ付小官モ亦同意
 シ表シ置キタム次第ナル處一方ハ國民黨側ニテ
 ハ直接關係者タル英國佛國總領事ニ於テハ北京

公使ヨリノ訓令ニ依リ犯罪人ト袁世凱一派トノ
聯絡ニ因スル証據烟滅ヲ謀カリツアリトノ懸
念ヲ懷キ現ニ黃興ノ如キハ犯人辯護士ヨリ既に
右ニ因シ北京、電報請願スル所アリタリト述内
証ニ有之右ハ或ハ臆測ニ出タルモノトモ考ヘラ
ルルモ御合置ノ上何等御開込ノ次第モアラハ
参考ノ為御電報ヲ請フ

第 24 号

6

換

條約

報告

取調

會計

人事

通商

政務

次官

大臣

第 二 四 七 号

第 二 四 七 号

第 二 四 七 号

第 二 四 七 号

第 二 四 七 号

伊集院公使

大連發大正二年三月三十日 前一二三、本有看

在上海總領事家三月二十九日發第一三号
(極秘)宗教仁暗殺事件、向レハ貴電
第一二号孫逸仙談話、次第ニ有之者
地、於、之漸、物議ヲ醸セリト云、アハ
模稜、有真相実止ノ旁三月二十八日高尾
ヲ趙秉鈞、許、遣ハレ上海方面ヨリノ
情報トレハ國民黨側激昂ノ模稜及
上迄否亮

犯人就縛ノ結果北方ニ不利ナル各種証
據物発見セリトノ説アル者ヲ述ヘ
成行次第ニテハ大向ニ累ヲ及ハス力如キコ
トナリヲ採リ難キ、片腹藏ヲ内情ヲ明
カサレタリト傳ヘ、ヒナラン、趙ハ本件ノ發
生ハ北方ニ配リ非常ノ打撃アリ實ハ犯
人ノ便溺者ト認メラル、應發至ル者
ハ過頼漢ニ荷レリ人物ニ其進會育
願ナルカ一毒ヲ同人ノ東壁ヲ誅レタルモ
略ス一寒年未当地ニ来リ自分、會見ヲ

ホノ具進會解散費用トシテ資金ヲ終
ラレタレト要求セシメ自分ハ一先ツ之ヲ拒
ミタルニ同人ハ内務部秘書洪述祖（寄
テ唐紹儀及陳其美等、使ハレタル男、
シテ唐ヨリ自分ニ推舉シ秘書トシテ部
下ニ属セシメタル者ナリ應トハ同郷ニシテ
多年ノ親交アリト云ヘリ）ノ紹介ヲ以テ
袁世凱、面會シ直接申出タル結果袁ハ
右ノ解散費用トシテ同人、五萬元ヲ終ニ
同時、同人ヲ長江警查長ニ命ジ程德

全ヨリ毎月一千元罷ノ手当ヲ終セムル
コトヲ約束セリ以上ノ措置ハ主トシテ南方
ニ於ケン現政府及對派ノ勢力ヲ挫カレ
カ為同人ノ利用セシトノ主意ニ出ラタルニ
ノニシテ自分ニ素ヨリ此ノ議、頷キ其後
五萬元ニ對スル費途ノ明細書及彙領
証等ヲ應ヨリ申渡シ現ニ保存セリ
（續ク）

（三月二十九日後六、二〇北京發）

大臣

次官

政務

通商

會計

取調

報告

條約

法律

三八
暗

大連森
本省著

大正二年三月廿日

前六〇

伊集院公使

第二四七号ノ二

斯ル次第ナル所今回計ラスモ同人ハ暗殺事件
、關係アリトノ事態ヲ惹起シ袁世凱及自分ハ
直接當面ノ黒幕ナリト目セラレ時局ニ動搖ヲ
来サントシツ、アルハ遺憾ナリヤ去何分、モ
應、對シテハ袁世凱及自分カ直接關係ヲ有シ
居リ殊、自分ノ部下タル洪カ萬事ヲ引ヲ為シ
タル行爲リモアルコトナレハ嫌疑ヲ蒙ルモ

上信各々

無理ナラス又場合、依リテハ洪、於テ自分等
ノ承知セサル事柄、付直接應ト書面ノ往復ヲ
為シタルカ如キ事ナキヲ保シ難ク左スレハ事
ハ益面倒ナリ証據ト云フモ或ハ之等ヲ指スモ
ノナランカ依テ事件發生後直々、洪ヲ取調ヘ
ントシタル所同人ハ既、後難ヲ恐レタルモノ
カ姿ヲ隠クシ行衛不明ナル、付嚴重ニ探査中
ナリ病氣、罹リ多分天津ニ在ルヘシト云ヘリ
以上ハ倅リナキ内情ナルカ懸念、堪ヘサルハ
上海會審裁判ノ結果、シテ萬一袁世凱及自

分、關係シ北方、不利ナル判決ヲ下サル、カ
如キコトアラハ由々敷大事、シテ袁世凱及自
分ノ致命傷ナレハ伊集院公使及英國公使、韓
旋、依リ何トカ事前、操消スノ方法ハナキモ
ノミヤ内容、公使ト相談セラレ切、尽カアラ
ンコトヲモフ云々ト申述ヘタル趣ナリ右ノ事
情ナルニ於テハ貴地ノ成行、最モ注意ヲ要ス
ヘキ義、テ出来得ヘクムハ相當ノ援助モ必要
ナルヘキカ本使、於テ前記ノ始末ヲ英國公使
、打明ケ相談ヲ試ムルトスルモ直々、妙案ア

ルヘキ苦ナク却テ不利ノ結果ヲ見ルヤモ知レ
大然モ犯人武士英ハ佛國側ノ會審ニ附セラレ
タリトノ趣ナレハ尚更テ輕率ニ打出シ難シ就
テハ當方、於テ何等チ候ヲ試ムル前ニ豫メ貴
地ノ実況並、趙ノ依頼、對スル貴官ノ御見込
等詳細承知致度、付折込シ返電アリタシ
本電報ハ大臣へ電報シタリ

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調 報告 條約

外務省 牧野外務大臣

上海 大正二年三月二十九日 有吉佐領事

伊集院公使三月二十九日發第二四号

往電第二四七号ノ件ハ趙ヲ折角、依頼ナレトモ
迂闊ニ容喙スヘキ事項ニアラスト思考レ三月三十
九日英國公使ヲ訪問レ本件ニ関シ何等聞
込タルヲトナキヤト尋ネタルニ在上海英國領事
ノ内報ニ依リ本件ハ北京政府ニ關係アリト、謹
據舉リ居ルモノナリ、會審衙門ノ審問ハ愈ニ三
上迄ナリ

月三十一日開クコトニナリ居ルカ結果右ノ次第暴露
スルニ至ラハ容易ナラサル事態ヲ惹起スルニ至ルヘ
トテ程德全ヨリハ本件ヲ全然支那側ニ引渡
フト出来間敷ヤト、内談モアリタル趣ナリ何レモセヨ
本件ハ重大ナル結果ヲ生ヌヘキモノト思考シ折角
考量中ナルカ去リトテ會審衙門ノ成規上公
使ノ干涉ニヨリ支那側ノ希望ノ通之ヲ引渡ス
トモ出来サルヘリ又之ヲ試ミレトスルトキハ却テ事態
ヲ複雑ナラシメ双方ノ利益トナラヌ寔ニ難渋ノ問
題ナリトテ殊ニ外憂慮シ本使ノ意見如何ト

コトナリシニ付本使ハ趙秉鈞ヨリ依頼アリタルコトハ
之ヲ告ケス唯各方面ヨリ情報ニ接シ事態密
易ナラズト思考シ趙ノ下ノ人ヲ遣ヘレ成行ヲ尋ネ
タルニ同人モ今回コソハ餘程困リ居ル様子ナリトテ
同人ノ内話ニ大体ツ告ケ本件ヲ支那側ニ引
渡スヲ成規上之ヲ許セ得ルノ餘地アラハ其希望
ニ應スルヲモ亦好策ナラシキ強テ之ヲ行ハントスル貴
説ノ如ク決シテ得策ニアラズ唯犯罪地カ居留地
外タリトカ會審衙門ノ成規上研究ノ餘地
アルニアラスヤト述ヘタルニ英國公使ハ素ハ外交條

長ヨリ本件ハ居留地外ニテ行ハレ然カモ支那側ノミ
ノ關係事項ニ屬スルモノナルカ故ニ犯人ヲ支那官
憲ニ引渡サルニ係上海領事團ニ訓令アリタレ
ト旨ヲ公然照會シ来リ就テ来ル月曜日(三月
三十一日)公使用會議ヲ開キタキニ會中ニ研究
シ置クハレト云ヘリ

海軍
ス豫メ我援助ヲ求メ置ク目的ナルカ如シ斯テ南北
ノ融和破レ近キ将来ニ於テ動亂再發スルヤノ
(一語不明)我國ハ豫メ之ニ對スル態度ヲ決定シ
置クヲ要スト認ム

新官長
ノ
以テ
此
を
示
ス

大正二年三月廿六日午後六時十七分上海
電信局
電信者 海軍令部長 増田海軍中佐
電報譯
極秘
宇教仁暗殺事件ハ其後諸般ノ状況ヨリ判斷
スルニ袁世凱ノ首謀ナルコト殆ト疑ナリ孫逸仙黃
興等ノ憤慨極度ニ達シ断然袁ヲ排斥シ政權
ヲ自置ニ收メント決心シ之カ爲ニ武力ニ訴フルモ辭
セサル覺悟ニテ既ニ時方軍隊ハ整齊ヲ失ヘタリ
孫ハ夫人看病ヲ口實トシ急ニ日本ニ密行セント
(花崎部)

参考
大正二年三月廿六日午後六時十七分上海
電信局
電信者 海軍令部長 増田海軍中佐
電報譯
極秘
宇教仁暗殺事件ハ其後諸般ノ状況ヨリ判斷
スルニ袁世凱ノ首謀ナルコト殆ト疑ナリ孫逸仙黃
興等ノ憤慨極度ニ達シ断然袁ヲ排斥シ政權
ヲ自置ニ收メント決心シ之カ爲ニ武力ニ訴フルモ辭
セサル覺悟ニテ既ニ時方軍隊ハ整齊ヲ失ヘタリ
孫ハ夫人看病ヲ口實トシ急ニ日本ニ密行セント
(花崎部)

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

法

上海發 大正二年二月三十日午後九時
 本府着 大正二年二月三十日午前二時
 野外務大臣 有吉總領事

伊集院公使宛 第一六号

貴電第一三号、同レ往電第一五号ニモ
 大略申上ケタルカ如ク、國民黨側ハ切リ、証
 據ノ隠滅ヲ慮レ、英佛公使等、於テ何
 等カノ手段ヲ執ルヲ憂ヒ居ル、付卑見
 トレシハ、英同總領事意見、如ク會審衙
 門ニテ一應審理ノ後之ヲ支那官憲、引
 上迄希老云

渡スヲ以テ、最モ障礙ナキ手段ト認ム而シ
 テ、各國居留地ニテ捕縛セラルルハ、教唆
 者應ハ教唆罪構成ノ場所モ居留地内
 ナルヲ以テ、革命事變後、於テ操り来レ
 る領事團ノ主觀トシテ、之ヲ支那側ハ
 引渡スノ理由ナキカ如ク、モ加害者或ハ居
 留地外ニ於テ謀殺罪ヲ犯シタルモノニシ
 テ、当然死刑、該当スルカ如ク、而カモ是
 等重刑ハ、依今日下特別ノ狀態、アリトシ
 テモ會審衙門ノ権能、属セシモノトハ認

ノ難ヲ俾回總領事之ヲ支那側、引渡ス考、見受ルハ、何等之カ連累者應ミ取調ノ便宜ヲ理由トシテ之依セテ支那側、引渡ス方可然ト思考ス太人前電ノ如ク英國總領事モ同意見ナル、付領事團ニテハ多分右、対シ異議アル向敷外支團ノ訓令アラハ勿論ノ事ト存ス而レト北京政府トノ關係ニ対スル証據ハ會審衙門ニ押收センモノ、外既、黃陂^等於テモ有力ナル書類等ヲ有シ居ルノ模様、付此

際之ヲ瞻昧ノ内、弄ラレトスルカ如クハ蓋、彼等ノ疑心ヲ生セシノ事態却テ面白カラサニ、ハ、寧ニ成行、任セ會審ノ場合、ハ、多少手心ヲ用セ自然被害、自白ノ場合ヲ別トシテ背後ノ背後迄、主入ラサニ標手心位ハ用中トモモ成ルハ、公平、處理スル方然ルハ、英國總領事モ同様ノ意見ヲ成ラシ居タリ依リ其辺ノ程度、ハ、一應審理ヲ為シ支那官憲、引渡ス方安全ノ策ナリ孰レ、ハ、主入リ、據情策等ヲ国力

ルハ却テ不利ヲリト思考ス御参考迄

5-1399

0024

情

取調 會計 人事

通商

政務

次官 大臣

大藏省

一四五 暗

牧野外務大臣

有吉保領事

上海支 本省著 大正二年三月三十日 前八三〇

第三八号

伊集院公使三月三十日 参事一五号

往電中二四七号、件、関してハ一應核對旁三

月三十日高尾ヲ越東釣ノ下ニ遣ハシ本使カ

英國公使ト内談、模様又 對此際採消

策ヲ講スル事ハ却テ不利ヲ招ク虞アリト思考

スル旨ヲ傳ヘシノ同時ニ逃亡セリト云ハル 洪述祖ハ

其貴官カ密ニ当地ニ去ラシメタリモノナリトノ説

上迄看先

アルカ如何ト問ハレタルニ趙ハ絶對ニ之ヲ否認シ然
カモ同人ハ既ニ山東ニ於テ取押タル旨今朝来
電ニ接シタルヲ以テ直ニ上海ニ遣ハレ裁判ニ立會
ハシ利益ヲ申立ツナサレハ答ニテ洪ヲ取押ハル信
果北方ノ為好都合トナリト述ヘ稍ニ得意ノ様
子ニ見受テリト云フ尚中央ヨリ程徳全ニ内命
レ極力裏面ノ運動ヲナシツアルモノノ如シ

大臣 次官 3
 政務 通商 人事 會計 取調 報告 隊約 博
 第 24 号
 10

大正 四年 三月 十一日
 牧野 外務大臣
 第四〇号

上海 大正 四年 三月 十一日
 本省 著 大正 四年 三月 十一日
 有 官 保 領 事

伊集院公使 三月十一日 外一七号

在上海 領事 宛 往 電 外一四号 末段 閣下
 三月十一日 外交 團 會議 ノ 開キタルカ 犯人 武士 英
 ノ 方 全 然 佛 國 官 憲 之 屬 事 項 亦 外交
 團 閣 下 所 アラス 應 變 亞ノ 方 一 應 有 罪
 事 實 證 明 セル 當 該 會 審 衙 門 於 滿 足
 此 時 外交 團 ハ 本 件 ノ 支 那 官 憲 引 渡 ス
 上 迄 各 光

異議 中 旨 回 答 スル 然ル 所 武士 英 佛 國
 會 審 衙 門 於 該 犯 罪 ノ 自 白 シタル 直ニ 支 那
 官 憲 引 渡 ス 據 已ニ 上海 佛 國 領 事 訓 令
 著 之 該 佛 國 公 使 席 上 該 語 亦 在 外
 交 團 決 議 決 定 ハ 單ニ 外交 係 長 迄 奉 スル
 止 上海 領 事 團 訓 令 ヲ 請 ヒタル アラス
 以 領 事 團 訓 令 限リ アラス トモ 決 セリ
 序 考 考 迄

朱

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

傳

上海渡 大正三年三月一日 前々
本署着

牧野外務大臣

有吉總領事

第四一號

今三十一日會審衙門に於ケル宋教仁暗殺
事件審理に支那政府側代表者ヨリ可成
速力に終結セシメテ旨申出ルハ拘
被告訴人ヨリ材料蒐集ヲ理由
トシテ相當期間延期ノ申請ヲナシタル
ヨリ結局来ハ金曜日迄延期シ同日及
上迄各元

土曜日、審理ヲ續行スル、申渡シアリ
右公使、轉電済

報告書

一前省會議員國民黨直隸支部幹事耿保隆、宋
教仁、趙學、事件、南シテリ、國民黨ニ於テハ、特ニ調
査員ヲ設ケ、極内情調査中ナリ、昨今、大体ニ於テ
袁世凱、趙秉鈞等ノ陰謀使喚ニ因ルモノナルヲ判明
シ、今、全國々民黨ノ擁護其拉ニ達スリ、實ハ國民黨
ニ於テハ、妥協トシ、袁ヲ正式大統領ニ推挙セントスルノ
意思ナキニアラサリ、今、本回ノ事件以來、形勢一変セリ
推擁シ、今ハ袁世凱ハ軍警所屬團ヲ拒ミ、後援ト
ナセルニ及ビ、國民黨側ニ於テハ、之ニ對抗シ、得ル實力ヲ
有ルヲ示シ、事、密ニテ困難ノ具、不少云々

大正三年四月一日

在天津 信報事 役

在天津日本總領事館

政務部長阿部外郎殿

12
12

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調
報告
條約
陸

第 四 三 号

上海 大正二年四月二日午後三時
本省 有吉總領事

昨三十一日孫逸仙ト會食中同人ハ此際
列國ノ態度次第ニシテ平和ノ時白ヲ解決
ニ得ヘレトノ意ヲ洩ラレタムト有耳意味ヲ
確メタル處列國ヨリ袁世凱ニカシレシ
ヲ與ヘテ退讓セシムト是ナリトナセルハ
自今一日別電ノ用向ニ會見ノ際在
閣聯ニ列國ヨリ袁ニカシレシヲ望ム
上 迄 各 元

力加ナハ内政ニ關シ列國ノ干渉ヲ希望セ
ラレト同一ノ意味ニアラヌヤト友國セル處
孫ハカシレシヲ是ニ行カストモ列強ヨリ
カシレシヲ與ヘラレシムト十分ナラハ怯懦ナル
袁ハ或ハ直ニ退讓ノ意ヲ感ラヌナラハ
左スレハ之ニ十分ノ名譽ヲ與ヘテ退カレ
ノ円満ニ解決ヲ見ルヲ得ヘレト認ムルモ
ノニレテ然レトテ干渉主國ノ外觀アル支
那トシテハ是レ位ノ干渉ハ論スルノ限
在ラスト云ハルニ付十官ハ私見トシテハ右

ノ如キフトス或ハ容易、望ムヘカラサルヘク
唐申述、ンカ如ク蒙古問題等困難ナ
ル涉外事件ヲ控ヘナカラシテ、内争ヲ
事トセシメ、於テハ國家ノ將來實ニ憂慮
スヘク宋教仁暗殺が表一派ニ關係アリ
トシテモ早計ニ表ヲ計畫トモ認メ難カ
ルヘク大事ノ前ニハ小段ヲ然メス國內問
題ハ之ヲ他日ニ譲リ此ノ際一先一段落
ヲ告グル様何トカ他、圓滑ナル方法ノア
リサルナキヤリ説示及問セシ處孫ハ更ニ

繰返シテ表ノ奸譎時ニ是ラサルヲ説キ
時ニ近來表ハ益々政權收攬策ヲ講メ
ツ、アムニ鑑ミ今日、於テ彼ニ當ラサレハ
他日彼ノ勢力益々鞏固トナリ容易ニ接
抗シ得サルヘク素ヨリ確手ナル制度ノ
必要ナルハ向カニ深ク之ヲ確信シ後未
ヨリ其方針ヲ殊リツ、アリタムニ其器、
淋ラサル表ノ如キ、全然國家ヲ毒ムンコト
ハ國家ノ大不幸ニシテ何時カハ更に紛擾
ヲ起スヘク今次ノ事件發生時極速ニナ

リシハ國家ノ弊害ヲ除クノ上ニ於テ寧ハ
慶賀スヘキコトナリト信ス而シテ現状ニ
於テハ支那本部ノ保全スル期ニ難キハ
現ニ(不明)セシトシテ、アル人心ヲ刺戟シ
確手タシ政府ヲ造リ先ツ本部ノ謀ヲ
立ツルヲ要スル際蒙古問題ノ如ク重要
ナラザルハ、アルモ暫ク閑却シ置クノ已
ムヲ得ザルモノアリトシ南北京ヨリノ情報、
照ラシ表ハ益々武備ヲ加ヘ議會開會前
後ハ必ズ暴力的強壓ヲ加フルノ意志歴

然タルハ會議場ニテ彈劾案ヲ提出スル
モノ等々殺害セラル、種ノ虐モアルヘク為
、彈劾案ノ提出ヲ見ヌ又ハ提出セラル、
モ不成立、故スルコトアルヘキモ何レシテモ
議會、於テ満足ナル結果ヲ見サレハ南方
一帯ノ都督ハ存、一時ニ起テ對抗スル、
至ルヘシトシ表ノ退讓セザル限リ軌シテ
シテモ軌シテ之ニ對立ノ意志固キモノ、如ク
曩、會見ノ時ハ多少趣ヲ異ニシたり
尚北京、於テハ軍隊ノ一部ヲ除ク、外ハ

表、併版して居るモノ、併容易に討伐
し得へしとせん、依りて官ハ一昨年以來ノ
歴史ヲ述へ、軍資其他ノ關係ヨリ北伐容易
ナラス北方又南伐スル能ハス為、計立久
シキ、且り茲、列國ノ干渉ヲ来し邊疆、
禍ヒスル等恐ルヘキ結果ヲ生スヘトせん、
并シ今日ハ前ヨリモ準備アリ、併及今計
立スルトシテモ、僅クモ一年間、ハ北方ハ南
方ニ制セラルヘキ軍資ノ如キモ南方、豐
富ナルハ明白ニシテ是、組織スル政府モ亦

華國ナル組織ヲ見ん、併、依りて日本政府
ハ、於テ南方政府ヲ承認セリシカ事ハ一
唐達、唐着トヘシ云々トノ樂觀的規則
ヲ下シ居リタリ、黃興ノ北京、對スル規則
ハ一唐樂觀的ニシテ南方一帶事ヲ舉
グン、於テハ容易、處分レ得、レトスル、似
タリ尚冬都督等ノ態度、同レ黃興ノ言
、依リテ表ニ確々巧妙ナル手段ヲ弄ス
ヘノ末々明確ナル打負ナリモ共和制度ニ
反對スルモノナキニ照ラレテ十分ノ味方ヲ得

ハク黎元洪ノ如キ亦表ヲ憚ル所トナリ
レハ、付多分味方トナルヘシトモリ要スル
コ是等ノ言ニ徴シ日下ノ處表トム全然
融和ノ余地ナクモリト認メラル、モ終末ノ
歴史モアリ其如何ニ程度迄否展スハ
トヤハ尚問題トナルモ野々トモ外撥ハ之ヲ
免カレサルヘシ尚黄興完ノ教日末却前市
ヲ為シ同志謀議ノ中心トナリ居レリ太師
冬考迄

右在北京公使、轉電請

13

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調 報告 條約 法

上海農大正三年四月一日
東京農大正三年四月一日
牧野外務大臣
有吉総領事

在北京伊集院公使宛四月一日農大正三年
宋教仁暗殺者引渡シ兼ニ証據物件検閲許可方
ニ関スル陳交渉使ヨリノ照會ニ対シ首席領事
ハ三月二十八日附リ以テ右証據物件検査ノ許
否ハ會審衙門ノ決定スヘキモノニシテ又同衙門
法廷ニ於テ犯人ヲ引渡スコトニ決セバ領事團ニ
於テハ敢テ之ニ反對セザルベシト思考ス尚其ノ
上
上
上

引渡シテ義讓シタリトスルニ之ヲ以前例ト見
做ス能ハサル旨回答セリ

宋

大臣
次官

政務
通商

人事

會計

取調

報告

條約

情

一四八
暗

漢口條 大正二年四月 一日迄六、五五
本有著 二日 前七、四五

牧野外務大臣

芳澤總領事

上海經由貴電、聞レ北京國會事務局ヨリ
湖北議員案内、夕特派セラレ月下當地
滯在中ノ江洪柘カ四月一日内務、地部、
諸ル所、ヨシハ宋教仁暗殺、趙秉鈞、有謀
ニ出ラタルモノ、ニシテ趙、其ノ秘書某、銀
五萬弗ヲ授テ、密カニ上海ニ赴カシメ刺客
上迄名先

應變臣一味ヲ買収シ孫逸仙上海著、
日ヲ以テ孫并ニ黃興宋教仁ノ三人ヲ
同時ニ暗殺セシムル手配ナリシモ孫ノ歸
朝稍遅レタル所一方國會開會期日切
迫シタルニ付三月二十日宋教仁見送リノ夕
黃興停車場ニ赴クヲ偵知シ其ノ機ニ乘
シ右一味ノモノヲシテ黃宋兩人ヲ狙撃セ
シムル計畫ナリシカ單ニ宋教仁ノミヲ斃シ得
タル迄ナリ秘書某カ上海ニ於テ確ノ許ニ一
週間餘潛伏シ居タハトモ最早ヤ舉証セリ

レタル。付今後本問題ハ漸次火ノ手ヲ上テ
或ハ國會々議傍頭一大紛擾ヲ醸スモ國之
スレノコトナリ。確否俄カニ判斷致シ難キモ
江ハ確カニ人物ノ趣承知シタル。付不取敢
御參考迄申進ス
在支那公使、轉電シタリ

宋

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

法

華盛頓條約 大正二年四月 三月九日七

本 省 著

珍田大使

第五四號

貴電第三號

閣下四月一日國務長官トノ會見迄ニ其ノ末段ノミ接到シ前段未著ナリシモ既著ノ分ヨリ全般ヲ推スニ事態或ハ容易ナラサルヘキカヲ想像シ得タルニ付承認問題考慮ノ資ニ供セシカ為メ不取敢右ノ次第ヲ國務長官ニ

上迄各先

告タルハ長官ハ米國側ノ得タル報道ニ依リハ諸事圓滑ニ運ビ居ル筈ナルカ此ノ報道、如キモ要スルニ選舉ノ際避ケ難キ黨争ニ過キサルヘク既ニ當國ニ於テハ激烈ナル政争、如キ自今モ渦中ノ一人ナルカ決シテ國家問題トシテハ憂慮ヲ要セサルニアラスヤト頗フル樂觀ノ模様ナリシニ付本使ハ電文ハ兵力云々ノ語アルヲ以テ見シテ決シテ普通政争ト同一視シ難カルヘキ旨ヲ注意シタル長官ハ

尚樂觀、態度、変セザリし所、其後
貴電全文、到著シタルヲ以テ、内容ヲ
國務長官、通報シ置キタル。今日
會見、際ハ、特ニ右、通報ニ對シ謝
意ヲ表シ、早速大統領ニ報告ス、キ
旨ヲ述ヘタルモ、事態自身ニ付テハ、何
等批評ヲモ加ヘズ、此、点ニ付テハ、聯
カ昨日、態度ト異シル親アリト雖、結
局米國政府、決意ヲ動スカ、如キ効果ナラ
ハキヤニ察セラル

14

14

第1125號

大正二年四月 四日接受 主務 政務局

大正二年三月廿六日

在上海

總領事 有吉 明

外務大臣男爵牧野伸顯 殿

宋教仁暗殺事件之関之孫逸仙

内話報告ノ件

宋教仁暗殺事件之関之孫逸仙ノ内話要領

ハ以電報及報告置候處尚ホ別紙何事カノ

御参考迄及提出候散具

追テ本信馬北京公使及送付置矣

在上海

15
15

宋教仁ノ暗殺ハ實ニ重大ナル事件ニシテ時局ノ
爲メ痛心ニ堪ヘス昨廿五日歸滬ノ後各方面ヨリ
得タル情報ヲ綜合シテ其少クモ袁世凱使喚
若クハ暗示ニ出テタルハ殆ト明白ニシテ之等ノ内情ノ
曝露スルノ日ハ局面ニ頗ル憂慮スヘキ現象ヲ
呈スヘシ袁ノ心事ノ陋劣ニテ有テハ奸策ヲ弄
スルハ余ノ元ヨリ熟知スル所ナルモ今次ノ果敢ナル暗
殺手段ニ至リテハ實ニ言語ニ絶ス彼レ一身ヲ大總
統ノ榮位ニ置キ然モ之ヲ主義主張ノ上ニ争ハス小
人ヲ使喚シテ暗殺ヲ敢テスルカ如キ寸毫モ倭借ノ余
地ナシ袁ハ梁士詒其他ヲ放ケ之ヲ楊子江一帯ノ
デテクレーブトナシ一定ノ電信暗號ヲ備ヘ事務所ヲ
設ケ機關ヲ備ヘテ隱密ノ間各種ノ計畫ヲ爲シ
ワハアリ或ハ暗殺等ノ風説ナキニテアリシハ我黨モ亦之
ヲ知ラザリシニテ然モ彼レ一孤陋劣ナル宋暗殺ヲ
以テ國民黨内部ノ所爲ニ歸セシメ却テ黨内訌
ヲ謀ラント企テナルカ如ク多数ノ新聞紙ヲシテ此種
ノ報道ヲ掲ケシメ延テ外字新聞ニモ類似シ能ク
ヲ載スルニ至ラシメタリト雖モ國民黨内部ノ毫モ
之ニ迷ハサルハ事ナキハ勿論暗殺ノ當時直ニ下手人
ノ捕縛セラレタランニハ或ハ却テ証拠ノ煙滅ヲ見シヤモ
未タ知ル可ラサルモ幸ニ下手人及ヒ直接ノ教唆者
逮捕ト同時ニ之カ家宅ヲ搜索シ証拠書類ヲ
モ合セテ押收セル趣ニ付事實真相ノ判明スルノ
日遠キニアラサルヘク其黨ニ關係ヲ有セリトノ想像若
クハ斷案ハ殆ト誤リナラシム事ヲ恐ル

元来宋教仁ハ生氣凌刺敢爲ノ氣性ヲ有シ黨内ニ於テハ却テ差シタル聲望アリサリモ黨外各方面ニ涉リテ知己ヲ有シ之ヲ黃興ノ自黨ニシテ勢力アリテ自軍動カサルニ比シ宋ノ存在ハ袁ニ取リテ一層危険視サレシモ無理ナラス之レ其臂頭第一ノ犧牲ナリト謂ハレ外主ス然モ袁ニシテ此種陋劣ナル手段ニ出テス主義主張ヲ以テ常ニ於テハ獨リ宋ノミナラス何人ト雖モ其間大局ヨリ打算シテ妥協互譲ノ餘地アリサルナカラヤ余ハ支那ノ現狀ヨリシテ時局收拾ノ必要ヲ認メ他ノ多數ノ批難攻訐ヲ顧ミス從來極力袁ヲ援助シ一部ノ黨員ニ於テ袁暗殺ノ計畫ナキニアサリシモ之ヲ制止スルミナラス却テ之ヲ第一次ノ大總統タラシマン事ニ努力シテアリタルハ一般ノ認ムル所ノ如シ然ルニ今ヤ彼ハ尚ホ此種惡諫ナル手段ヲ弄スルヲ已メ余ト雖モ黙止スル能ハサルノミナラス余ノ意志如何ニ關セス衆論ヲ制止シ能ハサルヲ如何セシ即チ彼ハ在野ニ向テ大總統タル資格ナキ一界方漢タルヲ証明セシモノニシテ余ノ從來ノ計畫ハ茲ニ水泡ニ歸セリ依テ昨日宋黨ノ領袖ト共ニ今後ノ手段方法ヲ合議シ飽ク迄平和公明ニ方針ヲ以テ袁ニ對スヘク即チ議會ハ元ヨリ豫定ノ如ク之ヲ招集セシメ議會ニ於テ袁ヲ彈劾シ人道ト正義ニ基キ在野ニ對シ公人タル袁ノ存在ヲ失セシメ決心ナリ袁ハ北方ニアリテ親軍ヲ有シ其勢力侮ル可キサルハ元ヨリ熟知スル所ニシテ之等ヲ利用シテ其慣用手段タル有ラユル強壓ヲ加フ可キ國民黨ノ北方ニ於ケル勢力ハ豫

想ノ外ニアルカ故ニ延テ北方ノ紛擾ヲ来ニ袁ノ成功
期ニテ望ム可ヲサルヘク若シ彼レニテ非常手段ヲ講スル
ニ於テハ我レニ於テモ亦自ラ之レカ方案ナキニアラス若シ如此
ク時局益ニ紛糾スヘク何レニテモ宋ノ暗殺ヨリニテ
國會召集大統領選挙問題ニハ憂フヘキ現象
ヲ呈スヘシ若シ夫レ國民黨ニシテ袁ヲ排斥シタル後
ニ於テハ大統領果シテ何人ヲ推スヘキヤハ明言シ得サルモ
既ニ黨ノ主義タル政黨内閣制ノ方針ヲ貫徹シ得
ル以上大統領ハ一榮位ニ止マリ敢テ必ス之ヲ才幹力
量アル人ナリ待ツノ要アラサル可ク國家ニシテ余ヲ必要
トセハ余ト雖モ元ヨリ辞セサル所ナリ何レニテモ宋暗殺
ニ伴フ政局ノ影響ハ極メテ重大ト認ムルニ付日本
政府ニ於テモ十分ニ注意ヲ拂ハレ相當ノ戒意アラ
ズ

在上海日本總領事館

レイヲ希望ス云々

大臣 次官 政務 通商 人筆 會計 取調 報告 條約 法

四四 暗 上海 大正二年四月五日 有言總領事

今四月五日山城丸、テ参謀本部能中大尉同船
 黄興幕僚楊廷溥實名、テ本邦、向ヒタリ
 右ハ黄興ヨリ宇都宮少将等、自己ノ立場ヲ説
 明セシメンカ為ナリトノコトナリ尚務文ハ今
 暫ク當地、在リテ形勢ヲ觀望スヘク或ハ其内
 何レカ、赴クヤモ知レサルモ未タ確定セト語
 リ居リ今回ハ成ルヘク政争ノ渦中ヨリ避ケタリ

上、名、え、し

希望ナルヤ、見受ケラル御参考迄
右公使へ電報セリ

宋

附屬書類添附

天正二年四月五日接受 主官政務局

公第一。六

大正二年三月二十五日

在清國

特命全權公使伊集院彦吉

外務大臣男爵牧野伸顯殿

宋教仁暗殺ニ関スル件

宋教仁暗殺ニ関スル臨時大總統令三月二十二日附
以テ公布相成美ニ付別紙訳文及送付矣 敬具

在北京日本公使館

07573

臨時大總統令

昨日午前農林總長宋教仁ヨリ來電ニ按レハ二十日晚上
海停車場ニ於テ奸人、狙撃セラル重傷ヲ負リト因テ
江蘇都督程德全民政長應德闓及上海地方官滬
寧鐵路總辦ニ電令シテ重賞ヲ懸ケ期限ヲ定メテ
犯人捕縛ニ努力セシメ並ニ交渉使陳貽範ヲ遣シテ
慰問セシメタリ嗣テ該交渉使ヨリ來電ニヨレハ宋前總
長ハ二十二日午前四時遂ニ創傷ノ為メニ逝去セリト民
國新ニ建設サレ人才得難キ、時該犯人大膽ニモ敢
テ衆目昭彰ノ地ニ於テ勳良ノ士ヲ狙撃セル、所轄
巡警ハ現場ニテ捕縛スルヲ得ス遂ニ逃逸セシメタリト
報ニ接シテ殊ニ痛憤ニ堪ヘス前農林總長宋教仁
玉事ニ奔走シ共和ヲ締造シ厥功甚々偉ナリ統一
在北京日本公使館

政府成立スルニ迫ヒ國務ヲ贊襄シ尤ニ能ク大體ニ通
シ畫策勸告シテ方ニ大ニ宏識ヲ展ヘントセシメ計ヲサリ
キ遽ニ慘変ヲ聞カントハ凡ソ我國國民タルモノ共ニ深ク愴
惻スル處ナリ應ニ國務院ニ命シテ優ク撫卹ノ詮議ヲ
加ヘ以テ崇報ヲ彰カニスヘシ凡テ身後ノ始末ハ業ニ
陳貽範ニ電令シテ鍾文耀ト會同シテ適當ニ處理
シメタリ方今國基未タ固カラズ群策群力賴ラ以テ相
與ニ扶持セサルヘカラスルニ況ンヤ尤モ人道ニ乖ル暗殺
ノ法ヲ以テ法律ヲ無視シテ此クノ如キ凶行ヲ為ス是
惟ニ國法ノ容ササル所ナルノミナラス亦國民ノ共ニ唾棄
スル所ナリ應ニ江蘇都督民政長ニ命シ責任ヲ負
フテ速ニ犯人ヲ捕縛シ主謀者ヲ檢挙シ具ニ真相ヲ
顯ラカシメ法ニ照シテ嚴辦セシメ以テ國紀ヲ維テ莫

魂ヲ慰メン此ニ令ス

中華民國二年三月二十二日

(大總統印) 國務總理趙秉鈞

在北京日本公使館

大臣
次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

決

南京
大正二年四月五日
大正二年四月五日

牧野外務大臣

船津領事

只今民政長應德閣、來談、依、洪述祖、昨日青島ニ捕傳セラレタリト又孫黃、本件ニ對シ、宗ノ横死ハ悲シキモ國家ヲ重シトナスヲ以テ成ル、無益ノ波瀾ヲ避クル為早ク本件ヲ解決シ、且控訴等ノ累ヲ防グ為特別裁判ニ附ス、ト、意見ヲ有シ居ル由尚應、本件、為明日再、上海ニ赴ク旨申參考、此、在支、以上、在上海領事、轉電セリ

上迄各老

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

決

上海
大正二年四月六日
大正二年四月六日

牧野外務大臣

有吉領事

宗、仁暗殺教唆者應、豫審、昨四月四日午後、今四月五日午前引續キ會審衙門ニ於テ、英國會審官主會、下、開カレ加害者武士、英モ亦證據人トシテ佛國居留地側ヲ招致セリ、訊問、受ケル所武、絶對、從來ノ告白ヲ取消シ宗教仁暗殺ハ全然自己一人ノ意思ニ出テ他ノ教唆ヲ受ケルモノニアラストシ應トノ

上迄各老

事前。於此關係を認め結果各種證據調
 へたり各因所留地警察署長、教唆、嫌疑
 者應、家宅ヲ搜索セル際押收セル一切ノ證
 據書類及凶器ヲ提出ス。及ヒ程部補代表
 弁護士之ヲ公表シ、通リ會審官ハ事以法問
 題、移リ重大ナルニ付自己一己ニハ決定し難
 キ要、向、協議スル必要アリ、理由ニ四月七
 日迄豫審ヲ延期し其間法廷ハ證據書類
 ヲ出トシ、審理スルモノト決シ右證據書類中
 ニ趙秉鈞ヲ十日以内ニ宗教仁ヲ暗殺スル

ト、應、命令電報其他ハ東京政府トノ關係
 動カスヘカサル證據ヲ備ヘ各ニ送リ會審官ノ
 公表ヲ躊躇セルモ無理ナラシ如シ公表ト否トハ
 會審官ノ責任トシ、多分自國領事ト協議
 し決定スル積リト存セリ孫黃以下國民黨側
 ハ熱心ニ公表ヲ希望シ若レ曖昧ト稱ス、更ニ嫌
 疑ヲ深シ事情一層面白カラサルヘトナシ去レリ
 英國總領事ノ意見ハ往電ハ三四号ノ如ク成
 へハ、公表スル意見ナシモ何レハ東京公使ノ命令
 ニ待ツモノトナシカ免。角ハ東京政府トノ關係ハ最早

掩
フ
カ
ラ
サ
ル
モ
ノ
ア
リ
ト
認
メ
ラ
ル
右大臣ノ電報セリ

宋

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調
報告
條約

19
19

上海泰
木省著
大正二年四月六日
有吉總領事
第四十七号

貴電第二五号ニ関シ會審衙門ニ於ケル審理
ハ往電第四六号ノ如ク豫想通り證據書類ノ
提出トナリ未タ公ニセラレサルモ趙秉鈞ノ電
報著勳カスヘカラサル書類ノ伏在ハ事実上明
白トナリタル結果孫逸仙ニ於テハ愈々之カ決
心ヲ定メタル如ク異直話ニ依レハ其豫期セサ
リシ趙秉鈞電報ノ現ハル、アリ獨リ法廷ノ意
上迄存在也

外トスル所ノミナラス吾人モ亦其甚シキ驚
クト云ヒ是等ノ書類ハ人道ニ會審衙門ノ當然
發表スヘキモノナリト主張シ最早表ノ罪ハ免
ルヘカラス斯ノ如キ卑劣漢トハ知ラスシテ大
總統タラシムルモトニ努力シツ、アリシ余モ
亦其責ヲ免ルヘカラス事茲ニ至リテハ余ハ堅
キ決心ヲ以テ先驅トナリテ表排斥ニ當ルベク
其方針トシテハ第一著ハ議會ニ於ケル彈劾タ
ルヘキハ素ヨリニシテ右ニシテ表ノ強壓其他
ニ依リ不成功ニ終ラハ是當リ南方ハ結束シテ

五ツハタ先以テ副總統タル黎元洪ヲシテ大總統ノ事務ヲ取扱ハシメ余モ素ヨリ電報其他ノテ袁ニ退讓ヲ勸告スヘキモ若シ肯セサレハ余ハ北伐軍ヲ率ヒテ自ラ袁ヲ討伐スヘシト決心セリ各地都督ノ意志モ確メタル所南方ハ勿論袁ニ反對ナルノミナラス北方モ於テモ概ネ同意見ヲ有レ陝西山西ノ如キ既ニ同意ヲ表シ居レリトナシ袁ハ元來怯懦ナルニ付事情斯ノ如クナラハ或ハ退讓スヘク果シテ然ラハ事容易ニ収マル望ミアリ若シ列國又ハ其三國ニレ

テ南方ノ形勢如何ニ依リ入道問題ト時局ノ大勢ヨリ袁ニ退讓ノ得策ナル者ビントラ興ヘラレシハ袁ハ必ラス退讓スヘク大局上幸福之ニ過キサルヘク北京ヨリノ内報ニ依レハ英米公使館ハ多少其邊ノ傾向ナキニアラストノコト、日本國政府、於テモ考量ヲ煩シタシト述ヘ決心一層鞏固ヲ加ヘタルモノ、如ク最早他地方ニハ赴ク餘暇ナク斷然當地ニ在リテ劃策ニ從事スヘシト云ヒ余々其態度ヲ更メタル觀アリ貴興ノ直談ニ依レハ北京政府ト

關係ハ趙ノ電報以外尙確實ナル證據アリ宋教
仁暗殺以前黃興、陳其美、宋教仁、孫逸仙、張
謇、趙鳳昌等ノ順序ハ十二人暗殺ノ計劃ア
ル由密告者アリシモ余及黎ハ多ク其理由アル
モ張謇趙鳳昌等ニ至テハ殆ント暗殺ノ意味
ナシト考ヘ一笑、附シ居タリシモ今ヤ右ノ真
實ナル證據立テタリ袁ハ皇帝タルノ野心ヲ
包藏シ苟モ共和、賛成スル者ハ殆ト殺害スル
計画ニシテ之カ目指ストコニ各都督以下八十
餘人アリトシ斯ノ如キ擄擄ナル人物、権力ヲ

委スルヘカタサルヲ極言シ孫ノ述ヘタルト同
シト議會ノ彈劾ヲ第一トシ速ニ兵馬ノ間ニ死
ヲ決シテ爭フ決心ナリト云ヒ而シテ黃ハ袁ハ
到底尋常ニハ辭退セサルハキモ列國ヨリヒント
ニテモアラハ彼ハ外國ニ顧慮スルトコニ甚シ
キニ依リ必ラス退讓スヘシトシ全然孫ト同意
見ヲ減ラシタリ各地都督ノ態度ニ至リテハ尙
明確ナラサルモノアルモ袁ノ計劃ハシテ暴露
スルニ至ラハ各自ノ安寧上ヨリモ結束シテ立
ツハク且南方ト雖一昨年来ノ經驗アリ先年ノ

例ト同一、見ルヘカヲサル、北方ニ至リテハ
我カ同志モ勢カヲサル上富社党等種々弱點
アリ一旦干戈ヲ交エルモ勝算歴々ナリト云
ヒ黎元洪ハ副總統ナルヲ以テ何レノ場合ニモ
正式總統選舉迄ハ大總統ノ職ヲ視ルヘク同
人ハ表面辭退シ居ルモ頗ル大總統タル野心アリ
裏面ニ於テ運動中ナリト一笑シ黎ヲモ全然
其味方、數ヘ居レリ要スル、孫黃等ノ意思
ハ所謂袁ノ計劃ナルモノ暴露ト共、自己
ノ危險ヲ感シ自衛上ヨリ益鞏固ヲ加ヘ飽

マテ袁及其一派ヲ排斥セサレハ已マサル決心
ヲ示シ之カ手段ハ先以テ議會ニ於ケル成行ヲ
待テ袁ニシテ退讓セサレハ南方及北方ノ味方
ヲ結束シテ立ツノ計劃ナリト認メラレ其間南
方ハシテ鞏固ナランニハ列國ヨリ袁ニビント
ヲ與ハ無事、時局ヲ収メ得ル望ヲ抱キ此点ニ
付テハ餘程重キヲ措キ居ルモノト認ム米國
ノ承認問題、聞シテハ孫黃トモ右ハ多分計劃
位ノ事ヲ誇大ニ傳ヘタルモノナルヘク後令突
飛ナル米國トシテモ新政府モ組織セラレリ

若シ孫黃等ハ
此ノ點ニ於テ
固執スルモノ
ナラバ

ル、承認スルカ如キコトアラサルヘシト觀察
シ黄ハ友人タル米國人モ常ニ承認ハ各國同時
ニ行ハルヘク米國ノニ校配ケスルカ如キコト
ナカルヘシト云ヒタリトテ事實ノ無根ナルヘ
キヲ信セルモノ、如ク或ハ袁ヨリ例ノ手段ニ
テ言ヒ擴メタルモノナランカト云ヒ且後令承
認サレタリトスルモ中華民國ヲ承認スル事
ニシテ袁ヲ承認スルニアラス全國民反對スル
時ハ袁ハ一ノ反逆者ノニ毫モ吾人ニハ支障ヲ
来タサズト望觀シ得又強ハ若シ新聞電報ニシ

テ事實トモハ米國ハ未ク目下ノ真相ヲ了解セ
サル結果ニ過キサルヘク本日米國總領事黃
興ヲ訪ヒタルニ付黃興モ多少話シタルヘク追
々事情ヲ了解セハ縱シ計劃アリトスルモ見合
ス、至ルヘシト述ヘタルニ付黃、米國總領事
トノ對話ヲ確メタルニ余ハ本問題ニ餘リ重キ
ヲ措カサル、付別般立入りテ内情モ話サス衆
認ノ風説ニ付余ノ意見ヲホメラレタル、對シ
其好意ヲ謝スル旨御世辭ヲ述ヘ置キタリト
云ニ餘リ意、介シ居ラサルモノト見受ケタレ

タリ高最近黄興ノ軍事幕僚タル李書城等
ノ重ナル者ハ昨今當地ニ未集シ陸軍部次長蔣
作賓等ノ北京ニ居残りタル同志ト相通シ頻リ
ニ商議セルハ事実ナリ

20

電送第九四八號晤

大正二年四月七日

書
卷
八
後

密に代表者少少に送る者
根拠を乞ひつゝアリトナリ有は天に

外務省

宋

信
21

一五九六
(暗)

牧野外務大臣 伊集院公使

第二六四号

四月七日趙秉鈞ヨリ高尾ノ来訪ヲボソタ
ル、伊集院ハ承認問題及宋暗殺事件
ニ関スル應答派ヲ中食ノ往訪セシメタル
ニ趙ハ今朝陸外文總長自分ノ来訪レ
昨四月三日承認問題ニ関レ同官ヨリ伊集
院公使ハ申込タル希望ノ筋迄貴官カ
公使ノ命、依リ同官、答ヘタル内容ヲ該

レ右、依レハ日本國政府、於テモ十分好意
ヲ示サシ、フト、考ヘラン、伊集院總統
ハ報告スル積ナルカ伊集院公使、於テハ
宋暗殺事件、國聯ニ時局ノ成行ヲ氣遣
ヒ居ラン、模様ナルヲ以テ自分ヨリ篤ト説
明ヲ盡ヘラン、様致サレトノコトナリレ、付
特ニ貴官ノ来訪ヲ預ハレタル次第ナリト
述ビ(昨日高尾ノ来訪陸ノ感想ノ向ハレメ
タルモ大事、至ラサルヘシトノコト要領ヲ
得サリレ次第ナリ)承認問題、伊集院陸

總長希望ノ通是非貴國政府ノ尽力
ヲ煩ハレタラズ右ハ袁總統ニ於テモ切ニ希
望シタル所ナリト云ヒ次ニ宋暗殺事件、
岡シヨハ裁判ノ成行次第、ミハ多クノ紛擾
ハ免カレサルヘキモ之カ為大向、累ヲ及エス
カ如クコトハ万ナカルヘキ見込ナリ孫董ノ
兩者カ本件ニ籍ヲ藉リ盛ニ、北方ヲ攻
撃シツ、アルハ要スル、黨員ノ手前ト自
己ノ立場、鑑ミ斯ニ威勢ヲ示スノ要アル
ト同時ニ之ニ依リテ人氣ヲ收攬シテ反對

黨ヲ壓迫シテ政權ヲ掌握（自黨内閣ノ
組織、依リ）セントノ底意、外ナラサルヘク
現、新内閣、自ラハ昨今共和黨ト國民黨
間、軋轉ヲ醸シ前者ハ徐世昌ヲ推シ後
者ハ董煥唐紹儀等ヲ推シレトツ、アリ其
如何、決スヘキヤハ素ヨリ未知數ナレトモ
孰レニモセヨ紛擾ハ政權ノ爭奪ニ在リテ
孫董ノ所謂袁世昌ヲ主トシテ對人問題
ニハアラサルヘレト云ヘン、付（續ク）

上海

第四〇一號

（附）

牧野外務大臣

伊集院公使

北京發 大正四年四月八日 前二二〇、
本署着 後三二五、

第二四四号ノ二

高尾ハ在上海總領事ノ來電ノ内容ヲ上
海情報トシテ該シ孫黃等ノ公言スル所ハ
如何ニモ陳テ根柢ヲ有スルモノ、如ク陳テ十
日以内、宋ヲ暗殺スヘシトノ貴官電報ノ
如ク果シテ事實ナリトセハ容易ナラサル事
態ナリト又同ニタシテ趙ハ絶体ニ之ヲ否
認シ居ル自分ニシテ眞實宋等ヲ殺セト

セハ決ミテ斯ル幼稚ナル手段ヲ執ラズ
況ンヤ自分ノ腹心ニモアラサル人物ノ電
報シ暗殺ヲ命ズンカ如ク愚ク為サズ又
宋一人ヲ暗殺シテ北方ノ為幾許ノ利益
アリヤ殊、宋トハ私交上ニ於テモ親善ニ
シテ同人カ任事政府ヲ退ヤタル當時ハ教
日間自分ノ宅、同居シ居リ上海、出發、
際シテハ同人偕全、保証人トナリタル陳
係モアノ位ナリ疑ハ、寧ニ陳其壽等ノ
輩ニシテ彼等社會ノ嫉視及同ハ豫想

以上ナリト傳へん陳カ多年應蘇丞ヨリ
金錢上ノ補助ヲ受テ居リ而者ノ關係家
接ナリトハ著明ノ事實ナリ而カニ宛所ノ
當日在人士武士兵ハ陳ノ自勅中ニ同乗セ
リト云フハアラスヤ要スルニ本件ノ真相ハ
應蘇丞對洪述祖トノ關係如何、依リ
明ルヘキニ依リ折角青島、於ケン洪ノ通
カサヌ様監守中ナリト誤リ盛ニ、氣焰ヲ
吐キ尚上海側ノ附々景氣盛ニナルニ據
ハ革命切實者タル劉揆一（文法部總

長）カ案ノ取ヲ取フ為同地、赴キ席ヲ以
テ北方ノ為調停ヲ図リタル、忽チ表ノ廻
レ者ナリト同セラル盛ニ、攻撃ヲ受ケタル
為勿人通ヲ敢リ月下天津、ニ辭表構
呈引龍中ナル事實アリト上海側ノ
魚リ方ヲ笑ヒ居タル由ナリ
以上趙ノ述フル所果シテ何程迄真實
ナルヤ處ニ到新報報キニ時局ノ成行
ニ付テハ引續テ前電ノ通左迄心配ニ
居ル模様ナリト見受ケル御参考迄
ハ申進ス

大臣
次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

法律

暗

上海農 大正二年四月八日 辰三、三五
東京著 九、五二

有吉 總領事

在北京何集院公使宛四月八日房二九号

當地ノ状況ハ中央政府ノ事情ト相俟テ判断

シ要スルコト勘カラスト思考セラル、ニ付貴

地ノ内情ハ御差支ナキ限り御電報ヲ煩シタメ

尚黃興ハ齋藤少佐ニ内話セシ處ニ依リハ當地

情偽ノ北京袁世凱一派ニ漏ル、コト甚々迅速ナ

ルモノアル旨同地ヨリ内報アリ太ハ或ハ自公ヨ

上院ノ各老云

リ有者ノ談話等が其職務上公使、電報セ
ラハ、結果ニアラズヤト想像セラレ故ニ餘リ立
入りタレ談話ハ出来ズトコボレ居タレ由記テハ
今後尚接觸、必要ニ有之ニ付大特ニ御台置ヲ
請フ

宋

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

陸

上海發
本有看
大正四年四月八日
九月前九
牧野外務大臣
有吉總領事

貴電第二六号、同レ程都督代表辦
護士、トリケラシム、黄興等國民黨ノ手ニ
テ契約スルモノニシテ表面都督代表ノ
名義ナシトシテ、實ハ國民黨ノ利益ヲ代表
セルモノナリ程徳全自負之目下全然回
氏黨ノ味方ナシ態度ヲ示シ居リ現、小
官黄興訪向中偶、程都督ヨリ朱護

上院各老

セ、トリス、不、報酬一千圓ヲ支給置キタ
ル旨ノ書翰、黄、送り來ルハ、ナリ黄ハ太
ノ書面ヲ示シ程都督ハ内心ハ免、角既
ニナシ、既ナリタ、斯、トモ我黨ノ不利益
ヲ圖、ナリ様、示、計、ト朱護士ノ事等々
斯、ナリ打合セ居、レ、因、リ犯人ヲ同都
督、引渡サシ、ミ安心ナリト述、ハ居、タ、ン位
ニシテ、今、タ、國民黨ト歩調ヲ共、ニ居、レ、ン
モノト認、ム、ハ、ナリ朱護士ヲ、シ、テ、証、據、ノ、公、表
ヲ、迫、ラ、レ、ノ、タ、ン、ハ、太、ノ、結果、ハ、外、ナ、リ、ス、吳、國、總

領事ニ程徳全ハ全然國民黨ノ利害ヲ
代表シ居レハモノトナレ居リ斯ノ如クシテ
董國孫文ノ有ルニ當嘉新門情報ハ凡ソ
前記トナラヌコリ愛可ハモノト承知
置顯ミタシ而シテ今日迄現ハレタル証
書類トシテ董國ノ語ハ所々依レハ洪述祖
ヨリ趙秉鈞ノ命トシテ新ニ電信符号
ヲ應發至ニ送レハ書翰及ニ月中洪
述祖ヨリ應ニ白ク其一切ノ準備整ハ
ル旨ノ報告ハ確カニ袁世凱趙秉鈞ニ上

申セハハ頗ル之ヲ嘉賞セウレ為事ノ報酬
ハ何レ送付セウハナリ古ノ書翰宋教仁ッ
殺ストハ熟章ヲ授クハレトノ洪ヨリ應
答三月十三日附電報宋教仁ヲ殺シタル
旨三月二十日二十日ノ應ヨリ洪ハノ電報
等アリトヤリ又吳回總領事ノ内話ニ依リ
ハ洪述祖ヨリ趙秉鈞ノ命トシテ新ニ
符号ヲ送付シタル書翰宋教仁暗殺後
應ヨリ匪魁ニ對シテ袁世凱洪述祖ノ
電報ハ確ニ實現セリ而シテ更ニ愕クナリ

ハ二月(不詳)日附述祖ヨリ應ニ哀ヲタシ
 秘密書留書翰ニシテ暗殺者武士兵ヲ
 他ニ通達セシメタル後ハ更ニ他ノ人物ニ備
 フヘシトノ命令ナリ大ニ明ニ二月二十三日他ノ
 暗殺ヲ計畫セシメト認ノ人、フト是ナリト
 ナセリ又書翰ヲ押収保管セシメ各回居留
 地警察署長「フム」直ニ依ルニ其北
 京政府ノ命令ニ出タル証據ハ掩ノヘカ
 ストレ書翰中表世凱ノ名前現ハレ居ンモ
 ノナシモ只一ツ洪ヨリノ書面、宋暗殺ノ

三

語ヲ得ニ表ハ微笑ヲ感ラレタル者ノ文句
 ナリタリ其他幾多ノ書翰ハ何レモ政府ノ
 命令タルヲ証明セサルナレト新書レ居リ
 信電第四七号趙秉鈞ヨリノ電報トハ
 以上ノ事實ヨリ判断セシモノト御会置ナ
 願ヒタレ員國總領事ノ意見トシテハ會
 審衙門、於テハ單ニ應カ暗殺者殺害者
 ンヲ証據主ツル可ナリ主入リノ其何人
 ノ命令ニ出タルモノナシヤノ審ミスルノ要
 ナカルヘク且同衙門ニ於テ詳細ニ是等ノ因

係ヲ取調、世間、公表スルハ事情甚タ不
リケトナルノミナラズ、後令其大總領ノ命、
出ラタリトスルモ罪人トシテ、放シ置リナキ、付
成ルヘリ速ニ一應審理ヲ了、領事團ノ議
、附ミ一切、証據ト出、支那側、引渡シ
之ヲ審分シ一任スルコト、シタテ會審官
ニモ其旨ヲ會ノ類リ、進行ヲ急クモ辦
護士連ノ魚用ノ言論、妨グラン、ヲ遺憾
ナリトシ尚犯人ヲ支那側、引渡スト決足ス
トセル何人、引渡スヤガ問題ナリトセル、依

リ本官ハ素ヨリ程都督、引渡スヘキモノ
ナリトセル處、英國總領事モ又同意見ヲ
ルニ程都督ハ國吏堂側ナルヲ以テ不可ナ
リトシ、説アリ候カシ其何堂トシテ問ハレ政
府ノ任命セル事該官臺ナシト云、引渡
スノ外ナカランヘリ之ヲ結果、如キハ顧慮スル
ノ要ナカランヘキカト述ヘ広クテ前述ノ事情
ニシテ程都督ハ孫黃ト歩調ヲ一ニシ居ルカ
故、黃電未收趙秉鈞内務ノ如キハ強ニ
引渡ヲ拒リ難ク黃陂ノ如キ其決心用、益

固く既、具体的、軍備計畫、着手し各
 地、於て召集し得、其勢ヲも打撃し
 度り且其買入等、其内々談、進ノヲ、
 其様子、之より前電ノ如く自家防衛上ノ
 問題、之より容易、妥協し得、之より其認
 ノ難々表世凱が頻、外國側、顧慮シ
 此等、於て此種ノ風説ヲ流布し平和ヲ装
 と云ん言、孫輩ノ豫、語り居タリ所、自
 趙ノ談話、或、其思ノ手心カトモ考、之ん
 御会迄尚一方表、議員ノ買収、着手

せん事實アリ黄圃之レカ有力な証據ヲ
 握り居レリ以テ不日發表スレト内閣ニ告
 りり而して孫輩等ハ在人々那側、引渡後
 ハ經都督等シテ直、審理、着手せし
 ノ証據素頼シ不表ニ表則責、材料ハ
 ナス計畫、以テ頻、引渡、速ヲラレコトヲ
 希望レ居レリ
 大公使ハ電報セリ

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

六九暗

牧野外務大臣

有吉佐領事

上海支本署大正二年四月九日附八二五

昨四月七日、宗教仁暗殺事件第四回會審ハ
 劈頭證據主類、公表問題、關シ裁判官ハ
 公表主張セルモ會審官ハ之ヲ拒ミタル旨ヲ報
 告シ裁判官ハ他日發表、時採アルヘシト述、次
 居留地警察署長、審問ニ移リ家宅搜
 索等、模様等ヲ審理シ其際署長ハ被告
 住宅、支那人ノ家トシテハ大ナル構造ナリト
 上迄各々ナリ

述、尚一巡査長タルト過キサル、秘密電信符号ヲ
 有セルヲ以テ最モ尋常ナラサント、思考スル旨ヲ述、
 續テ證據主類提出ナリタル所會審官ハ
 依テ其内ノ姓名ヲ公表スルストテ禁シタル右主類
 中辯論ハ俾ヒ公示セシメルモノシテ多少注意
 値スルモノハ一電報中ノ何レモ痕跡ヲ遺ササルコ
 ト最モ肝要ナリ其辺加テ彼ハ信賴ス、文句冬三
 月十九日差電信中、直ニ著手ヤコ、文句等ナ
 リ行シモ断片ニ止マルヲ以テ事實ハ真相ヲ明瞭
 ニスル迄ハ立止ム、尚警察署長ハ支那ニテ覺

派、事アリト而シテ、被告應、家宅搜索ニ依リテ
得タル書類、其政府側ノ事件ニ關係シ得
タルモノナルヲ確カント述ヘ、電信局總辦唐露園ハ
北京某(漢述祖ヲ指スモノ)ヲ三月十三日應
宛電報三月十四日應ヲ北京某宛電報二月
二十一日應ヲ北京宛二通ノ電報ヲ認證センモ右
電報ハ何レモあらず、侯王涵奏審問アリテ開廷
シ次回ハ明四月九日開廷、然リ本電報ハ往電
ハ四六号ト市參照アリシ
右公使ハ電報セリ

宋

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

法

大正二年四月九日
上海泰
本省署
牧野外務大臣
有吉總領事
第五三号

伊集院公使四月九日泰第一九号

宋暗殺事件、關シテハ屢次貴電ノ次第モ有之
タル処當方面ハ引續キ案外靜穩ニテ趙秉鈞ハ
自己、關スル證據物件、付テハ絶對ニ之ヲ否
認シ眞実宋ヲ殺サントセハ電報ニテ命スルカ
如キ愚ハ斷シテ為サスト云ヒ依然成行ヲ樂觀
シ居ル模様ナリ尚青木少将カ黃興ノ一派タル
上迄各老古

陸軍部次長蔣作賓ヨリ聞得タル通話、依レハ
事ノ眞相ハ暫ラク措キ之ヲ為シ後擾ヲ醸スコト
ハ大局ニ不利ナレハ折角平和ノ解決策ニ苦心
中ナリ結局ハ袁世凱ニ罪ヲ譲セス洪以下ノ処
分位、ラ落著スヘスト思惟セラル、カ万一證
據物件ニ依リ袁趙ノ兩者ニ罪アリト決定セラ
ル、ニ於テハ獨リ國民黨ノミナラス國民一般
ノ監視セカル所ナルヘシ聞、所ノ據レハ押収
書類中、ハ内務部ノ官印ヲ押捺セルモノアリ
トノコト、ラ多分誤述祖カ盗用セルモノナリ

シカト疑ハル直接趙東釣ニ罪ナキヲトハ
思考セラルモ官印押捺ノ事實アリトセハ趙
ニ於テ責任ハ免レサル所ナルヘシト云ヘル由
ナリ御参考迄
大臣ハ電報アリタシ

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

法律

六三 止海泰

大正二年四月 九日 九、二五
十日 前、三、三。

牧野 外務大臣

有吉 總領事

第五五号

米國承認問題、關シ孫逸仙、語ル所、依レハ
西三日、前北京米國公使館ヨリ特、人ヲ派シテ
宋事件、關シ調査スル所アリ代理公使モ始メ
テ其真相ヲ確メタルヘク本國政府ヘモ傳ヘラ
レタルコト、考フル、其後令承認ノ意志アルモ
暫ク見合スフト、ナラント觀測シ若シ此際承
認スルコトモアルハ、米國カ他日江湖ノ

上 張 君 氏 也

笑柄
ラッフィンクスストック トナルノ、我党ノ方針、ハ毫
モ何等影響ナカルヘシト考フト述ヘタリ、而シテ
後ノ方針トシテハ十二日開會ノ議會ハ可成議
事ヲ承引カシメ暗殺事件公判ノ結果明瞭シ、袁
問責ノ材料十分ナルヲ待ツ考ミシテ、對テモ
趙秉鈞ノ元兇タルハ事實動カスヘカヲサル、
其都合ニ依リテハ同人ヲモ法廷ニ引出シ證據
ヲ押エハク而シテ彈劾ニハ議員總員四分ノ
三以上ノ出席及其三分ノ二ノ多數ヲ要スルカ
故ニ已ムヲ得サレハ大總統選舉ニ袁ニアラ

サルモノヲ以テ之、充ツルコト、スベク其邊
ハ高政室中ナリ袁世凱モ内々軍備ヲ為シ居ル
様子ナルモ南方ノ形勢、鑑ミ表五ヶタル事ハ
之ヲ避ケ居ル模様、テ九龍山土匪起リテ張勳
ヲ南下セシムル計畫モ目下中止ノ有様ナレハ
差シタル急激ノ行動ヲ取ルコトモアラサルヘ
ク我方モ成ルヘク、イニシテチグヲ取ラサル考ナ
ル、其事件ハ尚更ラ永引クヘシト云ヒ袁ハ怯
懦ナレハ結局退讓スヘク若シ然ラスンテ干戈
ヲ動カスミ至ラハ茲々元兇ヲ仆スヲ得テ却テ

國家ノ前途、幸福ナルヘク尚最近袁ヨリ日々
二三回ノ電報ヲ以テ自己ノ立場ヲ説明スルト
共ニ推薦ノ申込ヲサシ来レルモ自分ヨリハ未
タ一回モ返電シタルコトナシ云々ト云ヘリ將
又今九日譚人鳳來訪ノ節其談ミ依レハ宋暗殺
ハ國民ノ監視シ能ハサル所ニシテ今日迄ノ證
據ヲ打消ス、他ノ事實ノ舉ラサル限り事件ノ
發生モ免ルヘカラサルヘシト云ヒ塔クハ尚張
謇ノ如キハ事件甚々複雑シ未タ真相明カナラ
サル、其暫ク傍觀ノ態度ヲ守ルヘキ旨申答セリ
御參考迄、右公使ハ電報セリ

宋

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調 報告 條約 他

大正七年四月十日

牧野外務大臣

有吉總領事

宋暗殺事件第五回會審、昨九日午後開廷各証人ノ訊問ヲ終リタル後被告側年護人ハ此後發シテハ求刑者側ニ於テ未ダ何等證據ヲ提供ナク間ニ押收セラレタル公文書暗号等ハ孰レモ應ガ其職務上保有セルモノニシテ同人ガ政府ノ役人タリシコトヲ立証スルト共ニ公文書中重大ノ關係アルモノハ其筋ノ命令ヲ待テ其文意ヲ解釋

セントスル旨ヲ述べタルニ會審官ハ之ニ答ヘ被告ガ政府ノ役人タリシ事實ハ被告ニ取リ何等利益ヲク縱シ被告ガ高官タリシ事ヲ證據立ツルトスルモ本件ハ審理上何等影響ナク寧ろ是ガ為メ面白アラサル結果ヲ生ズベシト云ヘリ次デ被告審問ニ移リ未ダ終閉廷未ダ一日迄延期トナレリ右公使ハ電報ヲ

宋

馬

大正二年四月十日着電

有吉總領事

收野外務大臣

第五七號

伊集院公使發

前略

自今元来素要ニナク又推察セラルハキ筈
之ナキニ付事務引継其他ノ為今後ニテ
月現位ニ停アリ引退ノ上ニ專ラ御陵事
務等皆當ノ為矢張り此京ニ在ル積
ナリ宗暗殺事件ニ結局應メ当面ノ責

外務省

任者ニシテ自今ハ何ント疑ハルモ之意
ニ从セズ但シ應下關係ニ供述祖ハル件ノ
主要人物ニシテ若シ當人行跡不明ナリトアルハ
非常ノ打撃ナリシカ幸ニ所立ヲ突止メタル
為成行止最早心配ナン南方側ヲ式方用
ニヘシトノ噂ナルカ何ノ意味タルヤリ解スヘカラス
但シ事實其態度ニ出フルナラハ之ニ對抗スルハ
容易ナリ惟フニ右ハ何等根據ナキ謠言ナ
ラン云々ト語リ宗暗殺事件ニ關シテハ極力辯
護ヲ努メ補ニ神經興奮ヲ弱子ニ見受ケタレトモ
時局ノ感想等ニ至リテハ真意ニ免セ角強テ平気ヲ
装フモノトモ受取ルハ何等カ確信アリ有スモ、如クニ
觀取セシメタリ

大正四年四月 拾日接受
機密第四三號
主務政務局

大正二年三月二十八日

在上海

總領事 有吉 明

秘受1195號

外務大臣男爵牧野伸顯殿

宗教仁暗殺事件ニ関シ件 其一報

急電

要電

國民黨重要人物タリシ前農林部總長宗教仁
暗殺事件及國民黨ノ態度ニ関シハ本件
發生以來屢々電報ノ通リニシテ本件ノ成行如何ハ
支那政界ニ重大ナル紛擾ヲ惹起スルノ恐れアリト認
ムルニ付今日迄ノ孫黃ノ内訌及當館調査ヲ綜合シ

別紙及報告書間御査閱相成度尙ホ本件ニ関シ
テハ今百隨時電報ニト同時ニ拜リ追ッテ本件懸
因ノ續報ヲ提出可致ニ付尤様御察了相成度此
改報告中進奏敬具

追テ今本件報告書ハ北京公使、漢口天津、奉天
廣東、哈爾濱各總領事、南京、長沙、福州、重慶
杭州、蘇州、各領事及第三艦隊司令官ニ及送付矣
間尤様御査閱相成度右申添奏也

永

(其一)

一、梁，暗殺重傷及死，去信，狀況

二、兇行及教唆犯人，捕縛及法廷審問

(1) 發覺、端緒

(10) 王阿發陳述

(八) 加害者武士英及教唆人應慶鳳，就縛。

(二) 會審衙門 第一面審理

三、被告人素性及袁世凱一派之關係

(1) 武士英素性

(12) 應 變 素 性

(18) 應變_ニ洪述祖_ニ袁趙_一洪_一閻_一保

(二) 求暗殺ニ関し北京ト聯絡シ、詎據發覺

四、宋暗殺、袁趙一派、態度

一、宋、暗殺重傷及死後、状況

當地滞在中、宋散任、既報、正式國會開會之際、國民黨方針及行動等、因、黃興其他同志より協議略不終り、然、本月、十日、夜、行、列車、にて、北、上、セント、にて、黃興及、由、成、党、員、見、送、る、午後、十時、半、江、寧、傳、車、場、至、り、將、り、ラ、ット、ホ、ー、山、に、出、る、利、那、一、到、客、為、短、銃、ヲ、腰、部、リ、撃、つ、重、傷、ヲ、蒙、り、重、傷、に、身、病、院、に、送、る、應、急、手、術、ヲ、請、り、翌、日、彈、丸、ヲ、取出、シ、タル、重、傷、意、外、と、重、く、遂、に、二十、日、午前、四、時、四、十、分、逝、去、シ、遺、骸、ハ、莊、嚴、に、葬、儀、ヲ、行、フ、二十、日、午後、病、院、ヨリ、高、昌、廟、に、附、南、會、館、に、送、ラ、本、月、二十九、日、同、會、館、に、於、て、追、悼、會、ヲ、舉、行、ス、ル、筈、ナリ

二、

而、シ、テ、右、暗、殺、者、ハ、當時、ニ、ミ、同、類、ハ、共、ニ、巧、シ、現場、ヲ、巡、査、セ、リ、依、テ、犯人、逮捕、ヲ、爲、ス、黃、興、陳、其、美、ハ、一、第、元、ヲ、開、北、地、鐵、局、

ハ、一、第、元、ヲ、江、寧、鉄、路、局、ハ、五、十、元、ヲ、醫、費、償、シ、各、警、察、署、及、國民黨、員、等、江、海、租、界、及、華、界、ハ、勿、論、蘇、州、其、他、各、方、面、ニ、互、リ、犯人、捜、査、に、役、事、セ、シ、ス、多、初、ニ、二十、日、宋、ノ、死、去、以、前、三、救、國、協、會、代、表、鉄、民、ハ、區、名、ニ、テ、宋、ノ、對、シ、予、ハ、長、沙、ヨリ、漢、口、ヲ、經、テ、上、海、ニ、東、若、一、暗、ニ、黃、興、ヲ、指、ス、ヲ、送、リ、來、リ、株、會、ヲ、ラ、ハ、暗、殺、セ、ト、企、テ、シ、昨、夜、誤、ッ、テ、足、下、(宋)ニ、狙、撃、セ、レ、ハ、申、談、ナ、シ、ト、奇、怪、々、意、ノ、書、面、ヲ、病、院、に、送、ル、ト、同、時、同、様、ノ、投、書、ヲ、民、立、報、に、送、リ、シ、ト、外、犯人、逮捕、ハ、俄、ニ、端、緒、ヲ、得、サ、リ、シ、爲、シ、先、行、關係、ヲ、キ、各、種、ノ、謠、言、紛、起、セ、リ

三、先行及救護犯人ノ捕縛及法廷審問

ハ、祭、禮、ノ、端、緒、國民黨、員、張、秀、泉、ノ、僕、鄧、文、斌、ノ、ル、モ、右、張、ノ、對、シ、過、日、友、人、ノ、家、ニ、知、合、ト、シ、河南、鄧、州、人、王

阿榮より節々新聞記者ヲテ革命當時ノ首領ニシテ近時
 近官吏アリシモノアリ同人ハ近々北ノ第ナルが上海又其途中
 同ノ人々暗殺セハ一千元ノ賞金ヲ与ヘシトテ右暗殺ノ相談リ
 受ケタルモ鄧ハ之ヲ拒絶シタルモ去ルニテ日ハ故ハ租界事件
 ハ右ノ關係セルモノニ秘スヤト打明ケタリ依テ張秀泉リ国民党
 同志等ト種々協議ノ上鄧リシテ王阿榮ノ所在ヲ探ラシメ佛祖
 界馬德里ニテ王ヲ発見シタルモ付種々好言ヲ構ヘテ二十三日
 午前五時ヨリ王ヲ某旅館ニ招キ大事ナケル今日迄ノ様子ヲ
 詳細話ス可シト迫リタルニ王ハ隱居者ノ勢力大ナル人ハ氣付カ
 レザルヲ別所ニテ語リタレトテ席ヲ換ヘタリ

王阿榮ノ陳述

王阿榮ハ張秀泉等ノ質問ニ對シ

語ル處ニヨレハ王ハ舊商人ナルが一週間計リ以前佛祖界
 父元房ナル應慶承ノ宅ニ商業ノ爲メ赴キタル際應リ王ハ

對シ此者ヲ暗殺スルノ胆カアル人アラバ周旋セザルヤ若シ其目的
 ヲ達セハ一千元ノ賞金ヲ與フベシトテ周圍ヲ切取リテ何事ハ父字
 ナリ裏面ニ商務印書館明信片ト父字アリタル繪葉書ヲ
 寫真ヲ示シタルが王ハ鄧ハ斌コリ適当ノ人物ナリト思ヒ其伯狀
 事ヲ鄧ハ語リタルモ鄧ハ之ヲ拒絶シタルモ其伯數日王
 ハ追々テ馬車ニ乘リ應ニ遇ヒタルカ其時應ハ馬車ヲ止メ
 王ニ對シ過日依頼ノ件ハ出来カバ又ニテ宣敷ト付他言フル
 何レ若シ他言ノ場合ハ殺ス可シト威嚇セリカト語リ依テ張
 秀泉ハ王阿榮ハ其ニナシ日共共同市面地盤警察署ニ赴キ
 右ノ旨ヲ報告シタル處署長ブルースハ親ラ宋教仁ノ寫真ヲ
 取り出シ王ハ向ヒ應カ示シタル寫真ノ人物ハ之レト同一ナルヤト問
 ヒタルニ其寫真ヲ見テ此人物ハ相似タル旨答ヘタリ此ハ概テ
 警察署長ハ直ニ佛祖界警察署ニ對シ父元坊應慶承

宅ヲ搜查スベク照会セリ

ハ先人及教唆人ノ就縛

是レ先キ国民党ノ多数党

員ヲ特派シ應ノ財ヲ偵察セシメシ應ノ常ニ姦女胡翡翠

ノ家ニ在リテ阿片ヲ吸食ス情報ヲ得タル付之レシ警察署

ニ報告スルヤ署長ブルースレハ多数ノ巡捕ト共ニ同英胡宅ニ赴

シニ紫再郷ノ招待ニテ迎春坊ニ弄妓女李桂玉ノ宅ニアル

ヲ確タル付直ニ同所ニ向ヒ應ヲ逮捕シテ共同居居地警察

署ニ拘留セリ而シテ一方佛由居居地警察署警官ハ王阿

榮ヲ隨ハ父元坊ニ應襲撃ノ家宅ニ踏込メ家人ヲ番リ座

内ニ入レ一切ノ証據物件ヲ押収シ家ノ周囲ニ警戒セシ外ヨリ同

家ニ入ルモノ一々取調布リシニ短身ノ青年ハ應宅ニ未シ警

戒巡捕ノ拘留スル所トナリ而シテ二十四日佛由警察署ニハ應

宅ニテ捕ヘタル男女ヲ取調バクル結果前記ノ青年ハ武士英ト稱

シ密教仁ノ加害者ト因合ニシテ二十日英ニテ同者ト共ニ沙寧
傳車場ニ赴キ短銃ヲ放ケテ衆ヲ狙撃シ同英ハ五道路ノ鹿
野旅館ニ宿シ翌朝應宅ニ至リ暗殺主謀者ハ全ク應襲
撃ノト白状セリ

ニ會審衙門ノ審理

教唆嫌疑入タル應襲撃ハニテ

四日午共同居居地會審衙門ニ於テ英國會審官ハシ

ドリイデリー及耳會審官ヨリ第一回ノ審理ヲ受ケ加

害者武士英ハ二十五日午佛由居居地會審衙門ニ於テ

佛由會審官「レ」ニナリ及耳會審官ヨリ第一回審理

ニ受ケタル本件凶犯者ニシテ未ク逮捕セラル者アリ又証據物

調査ノ都合ヨリ應襲撃ハ本月三十一日共同居居地會審

衙門ニテ房面會審ヲ開カルトナリ武士英ニ同法廷ニテ

証據人トシテ同時ニ審理セラル、若シ被告應ハ已ニニシテ外

國紳護士ヲ聘シテ紳護ト爲ラシメントシ國民黨側ニ托テ之ヲ
監督者紳護士ト更ニ之ノ外國紳護士ヲ聘スルヲトナセリ

三、被害犯人ノ素性及袁世凱一派ノ關係

(イ) 武士英素性

武士英ハ主トシテ山西有平陽竜門人ト稱シ名刺ニ雲南
七一四標ニ管帶帯ニシテ標統代理ト記シ革命軍變後
青島南京蘇州上海ノ間ニ往来シ上海ニ約テ月前ニ來
リ生活困難ニ爲リ共進會ニ入會シ何事カヲ爲シテ金ヲ得
トト欲シテ際應ニ愛國ヨリ一分元ノ懸賞ニシテ索敵仁暗殺
ヲ依頼セリ遂ニ事件ヲ惹起セシ人物ニシテ武士英拒撃ハ軍
ニ賞金ヲ得タリニ極度的ニ爲リタルモノナリ軍僅ニ二十ナリ
而シテ武士英ノ申立ニヨリ同又ト應トリ同武ヲ應ニ紹介シ
タル陳玉生タル者ナリ現ト同人兇行ノ際ハ陳モ江寧傳

九十二

車場ニ同行シ后トタリト云ヒガ陳玉生ニシテ二十七日鎮江ニテ
逮捕セラレ当地ニ護送スルコトナセリ

(ロ) 應慶(應)素性(應)別名ヲ桂馨トス

應慶(應)ハ昨年末當館報告ノ政黨結社調査ニ詳記セシ秘
密結社ノ要身先共進會々長ナシハ浙江有寧社人ニシテ數年
前蘇州ニ在リタル無賴漢沈高頭ノ養子ナリ沈ハ沈カ官
憲ニ捕ヘラレ北刑ニ處セシナル但租界驅逐ノ身分ナリシガ
當時袁世凱ノ胞弟袁世輔カ当地ニ在リテ付ニタル秘密通事
件ノ間人ナリ訴ヘラレ吏部官憲ニ拘留セラレタル際應ノ
尽力運動ニヨリ和解トナリ後袁世輔カ候補道ノ官當
テ蘇州督辦處總辦リタル中前ノ關係ニヨリ袁ハ當時
ノ蘇州巡撫ノ應ヲ保護シテ江蘇候補知縣リナリ或ハ官
職ヲ與ヘシヲ暫リミテ不仁行爲ノ爲メ革職セシ應ハ更ニ河

南に赴き再び河南候補知縣ノ官に就き或官職ヲ得たり
 又その事件ニヨリ再々華職トナリ当地附近ニ無賴漢トシ
 テ横行セシカ其革命軍軍中ノ上海白領當時都督陳其美ハ
 彼ヲ江蘇都督府ノ課報科長ト命ジシモ時々不白ヲ働キ
 陳都督ヲ持テ歸レリ所ヲ孫逸仙ハ南京ニ臨時政府組
 織之際同人ハ總統府衛隊司令トシテ南京ニ先着セシモ孫ノ
 由話ニヨリ孫ハ南京到着當時同人主トシテ總統府内準
 備ヲ敷ク例ハ僅ニ一元ノ料理ヲ備ヘテモ計算ノ際ハ之ヲ
 五元ト記キタラ一方之レカ支拂リ自己ノ身ヨリ受取リテ更
 巨大ナル金額ヲ南京大總統府費用トシテ北京財政部ヨリ横
 領セル人ナリト云フ其後彼ノ行動ハ殊々ミナシ横暴ヲ極メ且ツ
 信用ス可ラハ無ク爲メ彼ハ南京下関兵站部長ト轉ジ
 ルト浦口土地總領其他ノ不法行為ヲ行ハシ聲高カリシ

大

爲メ免官トナリ再々彼ノ者洪邦華等ノ解散兵乃至ハ無賴
 漢ノ頭目トシテ当地ニ既報ノ如キ共進会ヲ組織シ自ラ其会
 長トナリ浙江江蘇各地ニ支部分部ヲ設ケ無賴漢取締
 ノ好名目ニテ種々タル惡事ヲ働キ一時湖北ニ赴キ同地兵變
 關係シタル爲メ勢元洪カ殺サントシタルヲ程德全ノ電報ニヨリ
 漸ク許セラル上海ニ逃歸セリ

ハ應慶丞ト決意祖トノ關係
 是ニヨリ先キ上海ニ歡迎會開ク數人セラル同國ハ既報ノ
 如ク初メヨリ孫其美他ノ幹部カ毫モ關係セサル國民黨一部
 過激派ノ組織セル價値ナキ團體ナルモ北方數州凱一派ハ孫ト
 シテ重大視シ之ヲ解散且ツ南方勢力ヲ減退セシムル爲メ趙
 秉鈞ヲ秘書長選任シテ相識ナル当地共進會ハ長應慶丞
 トハ特別密接ナル關係ヲ結ハシメテ密カニ該國ノ解散及南

九千七

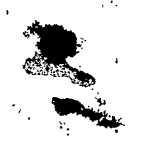
京と政

(二) 密暗殺に關し北京ト聯絡ノ証據發覺

化ニ國民黨カ總樞樞優替ノ結果政党内閣組織ノ貫シ計ラントシ密教仁ニガ總理タルトト同黨側ニ内定スルヤ系密教仁ノ政治智識ト敏捷ナル運動ヲ腕ニ他政黨ヲシテ余リト又密有トシガ(國民黨由テハ勿論孫黃尤モ人望アリ宋ハ國ヲリ黃興ノ下ニ立タルニ他黨ニ對シテ宋ハ黃興ヨリモ重キリ置カレシ事實ナリ後ヲ余金閣會伯ニ托シ密教仁ノ行動ハ表越一泓ニ托シ重大ニ影響ヲ受リル形勢トナリタルヲ遂ニ非常ヲ政ニヨリ先ツ密教仁ヲ未熟前ニ暗殺シ高キ出来得ヤリハ孫黃始ノ國民黨ノ重要人物約ニ為ノ暗殺計出リ云々其内意ヲ余ニシテカ(報)トシテハ最

初ニテハ宋ハ宋ノ爲メ暗殺ニ公債三百萬ヲ索ス

方情況ヲ報告セシメ表面袁大統領ハ秘密的結社ヲ禁止スル密布シ裏面ニ於テ都督程德全及應民政長等ニ内意ヲ含マシメ革命ノ功績ヲ名トシテ應蒙恩ヲ庇護セシメ以テ應蒙恩ヲ北京ニ呼ビ政貴ノ宅ニ宿泊セシメ趙秉鈞ニ後方ノ要係ヨリ應ヲ利用シ洪述祖ヨリ應ヲ袁世凱ニ紹介シテ親ヲ謁見セシメ南方共進會秘密結社取締ノ乃至ハ解散等ノ名目ヨリ先ツ五萬元ヲ賜フ洪述祖ハ國民黨ハ行動探偵具ハ歡迎國會解散ノ爲メ巨金ヲ携帶シテ應ト共ニ一月ニテ三日南下シ又應ノ北京滞在ニ中ニ程都督ト内命シテ應ニ江蘇駐長ノ漢化タル官名ヲ賜ヘテ毎月一千元ノ俸給ヲ給シテ上海ニ駐在セシメ現ニ應院ハ江蘇駐江巡査長公署及共進會掃蕩部ノ表札ヲ掲ケ幾多無賴ノ徒ヲ便嚇シテ時々南方ノ情況ヲ北京ニ報告セシムルコトナリ洪述祖其伯北



及動位贈與リ約シタル電報アリ又昂士詔廣東行ノ途次當
 地ニ寄リタル際ハ秘密ニ應ト種々協議シタル事實アリト傳ハ
 ラル而シテ本月中旬北京ヨリ應藝至ニ宛テタル秘密電ニヨル
 先ツ匪魁(忠教仁)ノフトラシニ殺ス可シト命シタリ其後ハ秘密
 電ニヨリハ可成早リ殺ス可シト命シ而シテ忠教仁ノ暗殺終ル
 ヤ高シ同友土時頃應ヨリ北京洪述祖ニ對シ秘密電ニシテ
 再旨ヲ通シ石子人一同無事ト報シ更ニ翌朝午前二時半長
 父ノ秘密電ヲ宛テテ暗殺情況ヲ報シ次テ北京ヨリハ成功
 シ祝ストノ電報ヲ應ニ寄リ其後北京ヨリ應ニ宛テタル秘密信
 ニヨルニ前記面電確接今伯胆數頼ハトハ父意アリ右電報
 及秘密信ハ由氏黨員カ電報局及郵政局ヲ種々タル手段ヲ
 以テ取リタルモノニシテ右秘密電暗號ノ及秘密信ノ如キハ現物ヲ
 萬興所持シ居リ而シテ右應ノ秘密電何レモ轉呈シニ字
 アリ而シテ洪宛先ニテ趙乃聖ハ袁トノ脈絡ハハ爭フ可クハ事實
 ト認テラルト稱シテ亦幾多ノ証據物ハ應宅ニテ差押ヘタル物
 品以外由氏黨側ニ所有シ居ル模様ナリ

四、宋暗殺ト袁趙一派ノ態度

本件發生ハルヤ袁大總統ハ高シ程江蘇都督應民政長並
 陳上海交涉使等ノ當局者ニ犯人逮捕及嚴重ニ法律ニシテ
 查辦スヘキヲ命シ一面袁陣ノ命令ヲ出シ趙秉鈞其他ヨリモ
 電報ヲ送リタルガ当初袁趙一派ハ其國民黨派ノ新聞其他
 利用シ本件ヲ國民黨員中ノ所為ニ改メシメント計リシニ關係
 者捕縛セシ証據書類ヲ押收セシタルノ形跡アリ事態
 漸ク重大ナラントスルヤ程都督ニ当地出張會同查辦シ余
 ニ依テ程都督ハ秘書科長羅良鏐ヲ隨ヘテ滬ニシテ前
 ヲリ黃興等ト商議シ居ルモ黃興ノ内訌ニヨリ程都督ハ兩

九千六

者、中間、決つて居るカ、頗る曖昧、其態度、有セリト稱セリ
最近應に蘇民政長、中央、余、ヨリ、未だ、本件調査、行
フコト、ナレリ、而シテ、面、中央、政府、程、都督、余、シ、陳、文、涉、便、ヲ、シ、テ
本件裁判、ヲ、不、成、會、審、衙、門、ヨリ、支、那、側、審、判、廳、ニ、列、渡、方、ヲ
当地領事、國、ニ、文、涉、セ、シ、本件、地方、乃至、中央、ニ、托、シ、審、理、シ
本件、リ、加、害、者、武、士、英、教、唆、者、應、蒙、亟、乃至、活、速、祖、個
人的、關係、ニ、取、セ、シ、ン、ト、テ、犯人、ト、袁、趙、一、派、ト、連、絡、シ、聞、ス、ル、証
據、煙、滅、リ、謀、ラ、ン、ト、シ、武、英、佛、公、使、運、動、シ、当地、英、佛、總、領、事
ニ、對、シ、福、便、ニ、處、置、方、訓、令、ヲ、囑、顧、シ、リ、ト、消息、ヲ、北京、ヨリ
得、タル、モノ、カ、國民、黨、側、ニ、托、シ、會、審、衙、門、ニ、托、シ、犯人、ト、袁、趙
一、派、ト、連、絡、証、據、煙、滅、シ、ヤ、レ、付、願、ハ、抵、倉、シ、黃、興、ノ、如、キ、モ
出来、得、ヘ、ン、バ、會、審、衙、門、ヨリ、列、渡、方、ニ、証、據、品、ヲ、寫、真、ニ、取、リ、置
キ、度、ト、稱、シ、又、被、告、犯人、辯、護、士、ヨリ、已、レ、右、証、據、煙、滅、方、ニ、聞
シ、已、ニ、在、北京、活、速、祖、ニ、對、シ、電、報、請、願、ス、ル、處、アリ、タ、リ、ト、内、証
セ、リ、本件、會、審、衙、門、辯、護、士、聞、ス、ル、小、官、白、牙、見、並、ニ、英國、總、領、事
事、等、ノ、意見、ハ、既、電、報、通、リ、タル、北京、公、使、國、ト、關係、セ、ル、ニ
付、本月、三、日、ノ、第、三、回、會、審、衙、門、ニ、上、テ、ハ、確、定、セ、ス
而、シ、テ、一方、北京、國務、院、ハ、本月、三、日、各、都、督、民政、長、ニ、電
報、シ、テ、曰、リ、本月、三、日、午、前、十、時、ニ、接、手、シ、テ、本月、三、日、付、
上海、應、蒙、亟、ヲ、送、シ、テ、監督、議、院、改、政、府、神、聖、裁判、
機關、簡、宜、告、以、シ、ト、バ、先、ヲ、宋、教、仁、ヨリ、着、手、シ、袁、世、凱、孫、述、
仙、黃、興、梁、啟、超、智、元、洪、趙、秉、鈞、等、十、數、名、ノ、民、主、
要、人物、リ、殺、サ、ン、ト、無、異、極、ニ、所、言、アル、付、法、意、アリ、タ、シ、ム、
ト、奇、怪、且、ワ、不、得、要、領、ナル、體、裁、ヲ、究、セ、ル、カ、如、キ、ハ、豈、袁、趙、一
派、ハ、托、シ、本件、ヲ、曖、昧、ニ、葬、ラ、ン、ト、ス、底、意、アル、モノ、ト、シ、テ、國民、黨、側
ニ、托、シ、ハ、激、憤、ノ、度、ヲ、増、シ、ワ、リ

大臣
次官
政務
通商

牧野外務大臣

芳澤總欽事

上座長老

院に於て憲法ト大統領選舉トノ前後問題に對し袁世凱ト申ヒ主張シ母國ヲ爲メニ兵力使用ヲモ辭セザル決心ナルモ若シ在省都督ノ意見一致ヲ見ザルに於テハ南北ノ對抗ハ固ヨリ強キと難シ尙ホ孫黃等ハ江蘇湖北ニ省ヲ余リ重要視ス右ハ黎元洪程德全ハ形勢ノ推移如何に依リて就テ決スル人物ナリ故に部下ニ黃興ノ同志多クテ以テ都督自身ノ意向如何ハ左程懸念スル必要ナキヲ以テナリ但シ黎ハ内心袁世凱ノ味方

ト或ル欲スベキモ或ハ革命爆発當時
如ク部下ノ強制ニ依リ余儀ナク南方側
味方スルニ至ルベシ云々
北京ノ轉電シタリ

宋

青

長

宋

外交

秘受1206 號

大正二年四月拾日接受

機密第四五號

大正二年四月三日

在上海

總領事 有吉 明

外務大臣男爵牧野伸顯 殿

當地方情況報告、件

當地方ニ於ケル政局、波瀾外面漸ク靜平ニ歸シ
 議員選舉モ一敗落ヲ告ケ其多數ハ相伴フテ北
 上、途ニ就キ又ハ就ラントシ、一方孫文及ヒ黃興
 等ハ大總統ノ候補者タルヲ辞退スル旨ヲ公表シテ
 袁世凱ヲ推選シ國民黨中寧口急激派ニ屬
 セル宋教仁等ノ如キ裏面ニ於テハ袁ノ頼ハニ足ラ
 サルヲ痛感シ切リニ批難ヲ加ヘ居レルモノ亦各種
 ノ公會ニ於テ時局ノ大勢ニ鑑ミ袁ヲ大總統ニ選
 舉スルノ得策ナルヲ說キ如斯ニシテ大總統問題モ和
 平ニ落着、前途ヲ有シ議會ニ於ケル問題ハ憲
 法制定内閣組織等ニ繫リ免モ角一ト先ツ正式
 ナル政府ノ組織ヲ見ルニ至ルヘキヤノ氣運ニ向ヒワ、アリ
 タル際俄然宋教仁ノ暗殺セラルヤリ加之機密第
 四三號報告、如ク其根帶頗ル深クサクトモ北
 京現政府トノ脈絡ヲ有スルノ嫌疑ヲ免カレサル情況
 ヨリシテ國民黨内、物論湧起シ人心頗ル激昂
 ヲ極メ黃興ハ勿論從來堅ク袁世凱中心說ヲ
 採リ居タル孫逸仙ノ如キモ亦邦ヨリ歸滬シ各

在上海日本總領事館

種ノ情報ヲ得ルト共ニ大ニ反感ヲ惹起セルモノ如ク其所説ハ當時電報及ヒ書面ヲ以テ報告ノ如ク甚タ強硬ナルモノアリ然シテ彼等ノ確実ナル証拠ヲ有セリトシテ信シツアル所ニ依レハ今回宋ノ暗殺ハ單ニ其端緒ニ過キス國民黨員名士中ノ數十人ハ勿論黎元洪スラモ其憚ル所トナリテ暗殺豫定人貧中ニ含マレ全般ノ計畫頗ル大仕掛ケナルモノアリトシ延テ袁ヲ以テ殆ント常習ノ暗殺者ト見做シ滿廷時代ニ於ケル皇帝最近ノ皇太后ノ死因ニスラ疑ヲ懷キ益々杞憂ヲ生シテ茲ニ宋教仁暗殺自体ニ對スル尙責ニ如フルニ袁ノ勢力ノ増大ト共ニ自己ノ存立ヲ危クスルノ憂慮ヲ以テ即チ自家防衛ノ意味ヲモ如味スルニ至リタルモノナル故ニ今次袁ニ對スル反感ノ氣勢ハ甚タ激烈ナルモノアリト認メサルヲ得ス

如此ニテ袁世凱排斥ハ殆ント國民黨一汎ノ確定議トナリ之カ手段トシテ第一着ニ議會ニ於ケル彈劾ヲ企畫シ右ニ對スル袁ノ措置如何ニ依リテ進テ各都督ヲ糾合シテ袁ノ武力ニ對抗スルノ策ニ出テ時機ニ依リテハ更ニ南方ニ政府ヲ造リテ對立セシ計畫ナルハ孫逸仙黃興等ノ内訌ニ明カニシテ當初ハ議會ニ最モ重キヲ置キ以テ袁排斥ノ手段トナサレトセルモノト認メラレタ最近北京ニ於テ袁カ益々武備ヲ嚴シ大ニ強壓的の態度ニ出テトスル傾向ノ傳ヘラルヤ議會ノ成行キノ如キハ指テ之ヲ問ハス袁ニシテ退讓セサル限リ有ラ

在上海日本總領事館

九十九

ヌル方法ニヨリ飽追素志ヲ貫徹セルトスルモノト認メラル
 即チ最ニ電報ノ如ク武力ヲ強制ニヨリ危険ノ
 恐レアル結果彈劾案ハ或ハ議會ニ上ラサルヘク若
 シ上ル事アリトスルモ否決ニ了ル等何レニモテ満足
 ナル結果ヲ見サル虞レアルモ斯ル場合ニハ南方都
 督代リ起テ袁ノ處分ニ當ルヘシトノ孫ノ内訌ハ蓋
 シ議會ノ成行如何ヲ問ハス袁ノ態度次第ニテ
 直ニ對立ヲ企テ武力ヲ以テ之ニ當ラセトスルノ決意
 シ示セルモノ外ナラス然レテ彼等ノ依頼スル南方各
 都督ノ態度ニ至テハ黃興談話ノ如ク未タ彼等
 ニ於テ確タル成算ヲ有スル迄ニハ判然タラサルモノシテ
 元ヨリ撥ヲ飛ハレテ切リニ交渉ヲ重ネツアルハ事實
 ト認ムルモ當國々民ノ常性トシテ先ツ以テ自己ノ
 利害ヨリ打算スヘキ故ニ袁世凱ノ勢力ト其籠
 絡策ニ依リ幾分牽制セラルカ如キ事ナキニアル
 ヘク黃興モ亦巧妙ナル袁ノ手腕ヲ憂フルノ口吻
 ヲ洩ラセルモノ一理ナキニアラス即チ若シ客年南北
 合致以來ニ示セル袁ノ靈腕ヲ以テシ南方一帯
 シ籠蓋スルヲ得ハ國民黨一派ノ中堅ハ僅カニハ
 憤ヲ暗殺其他ニ漏ス外アラサルヘシト雖モ少クトモ
 孫黃其他ハ仮令短時日ト雖モ既ニ要路ニ立テ
 タルノ經歷ヲ有シ一部國民ノ信賴ヲ繫キ都
 督中ニモ亦其配下少カラス安徽ノ柏文蔚江
 西ノ李烈鈞其他既ニ備フル所アリト傳ヘラレ南
 京都督程德全ハ寧ノ口袁ニ近シト雖モ四圍
 情況ニ照ラシ南方ニ敵スルモノトハ認メ難ク如斯シテ

在上海日本總領事館

國民黨一派ノ全然之カ立場ヲ失フカ如キ事アリトハ想像シ難キヲ以テ南北ノ紛擾ハ目下處到底免レ難キ所ト推測スル外ナシ黎元洪ノ立場ニ至テ黃興ハ寧ロ南方ノ同志計策ニ含メ以テ差當リ大統領ノ職ヲ行ハシメ事ニ決定シ袁ヲ退讓セシムル爲メ其北上ヲ促カセリトノ説スラ傳ヘラル、位ニシテ其真相ニ至リテハ未タ之ヲ確メ難シト雖モ彼レニシテ袁反對派タルニ至ラハ南方益々強勢ヲ加フヘシ

孫文黃興等ノ南方勢力ノ打算ハ的確ナラサル迄モ如此シラサトモ其甚タ優勢ナルヲ信スルト共ニ一方北方袁ノ地位ヲ頗ル薄弱視シ北方ニ於ケル國民黨ノ勢力ト國民ノ同情ト然レテ袁ニ對スル宗社黨其他滿洲派ノ反感ハ著シク其勢力ヲ減殺スヘシト爲シ所謂其有スル十萬ノ兵モ頼ム足ル所一萬ヲ起ヘサルヘク資力ニ至テモ南方比較的豐富ナルヲ以テ袁ノ征服ハ事容易ナリト樂觀セルモノ、如ク孫文ノ如キハ僅クモ一年以内ニ落着ス可シト稱シ黃興ハ尙ホ一層輕視シ居レルモノト察セラレ從テ彼等ハ益々此際ニ於ケル袁排斥ノ決心ヲ堅クセルモノト觀測セラル於是乎蒙古其他涉外ノ問題ニ對シテモ內治ヲ先キニシテ後容易ニ解決シ得ヘシトノ極メテ樂觀說ヲ懷キ對外關係ノ重大ナルヲ說示シテ彼等ノ反省ヲ促スモ殆ト可ク假サス一

在上海日本總領事館

意袁排斥之莫進スル外餘念ナキモト認メ
 如前述彼等ノ目的トスル所ハ宋教仁暗殺ニ依リテ
 益々袁ヲ疑ヒ自衛ノ爲メ一々袁ヲ排斥スルニテ
 敢テ攘リテ事ヲ好ムモノトモ認メ難ク彼等モ亦國家
 前途ノ多難ナルヲ了解シ居レル結果出來得ヘクハ
 可成平和ニ之ヲ目的ヲ達セリ一腐心スル所アルハ
 察スルニ難カラス孫文ノ内詔中 列國ヨリ時局解決
 ノ爲メ袁ニ對シ列國ヨリ退讓ノレトトヲ與ヘラルハ
 二於テハ怯懦ナル彼ガ直ニ其意ヲ決ス可シト豫
 想シ右ニテ果シテ行ハルヘクハ彼レニ榮譽凡退讓
 タ爲サシムル最モ可ナラスヤトセルモノ蓋シ孫袁心ノ希
 望トモ認メラル國家ノ將來ヲ憂フル國民黨員
 中ニ袁ノ退讓後ハ時局收拾ノ爲メ孫黃以
 外ニ大統領ヲ要メ候々王兆銘ノ如キヲ推挙
 セントスルモナリ其何人タルカ同ハス彼等ニ不安ヲ與ヘ
 サルモノナラハ想フニ其満足スル所トナルヘキモ然モ美者
 リ其深ニ憂トスル袁世凱ヲ戴ク事ハ彼等自衛
 上ノ問題ニシテ到底忍フ能ハサル所ナルヘク袁ニシテ
 自己ノ殘虐ニ依リ若クハ他ノ注意ニ依リテ居ル
 退讓スル外紛擾ヲ生セシメテ差当リ平和ニ解
 決セシムル途ハ無之モノ如シ
 今次袁排斥運動ニ對シ列國ノ同情ハ孫黃ハ
 一派ノ顧慮スル所ナルハ列國ヨリ袁ヘレトシスラ
 望ミ居ルニ依リ明カニテ特ニ日本ニ對シ最モ依
 賴スル所アラントスルハ彼等ノ内詔スル所ニ案を得ヘシ
 孫ハ切リニ我政府ノ廟議ヲ定メテ一旦南北分立

在上海日本總領事館

際ニ於ケル態度ヲ決セラル、必要ヲ説キ袁世凱
ノ陰險譎詐ナル過去ノ歴史ノ証スル処ニテ反
令一時日本ニ倚ル利益ナル場合ニ之ヲ利用スル
アルヘキモ袁心ヨリ之ニ信賴スルノ誠心アラサルヲ指摘
シ北京ニ於テ親日政策ヲ説キタル當時ノ模様
ヲ繰返シ反之自分ハ勿論國民黨ノ有ル者
ハ誠意ヲ以テ日本ト提携ヲセリトシツアルモノニテ若
シ理想ノ如ク南方ノ意見行ハレ華固ナル政府、
發現ヲ見ハ日本ノ貨幣制度ヲ其儘採用シ續
易ノ進長ヲ謀ル等兩國親近ノ政策ヲ講シ以テ
東方平和ノ局面ヲ維持シ得ヘト述ヘ南北分
立ノ際ハ本邦政府ノ速ニ南方ヲ承認セラル、標
致シ度ク日本ノ利益ノ爲メトアラハ米國ノハナラズ美
認シタル例モアリ速ニ決行セラル、モ亦可ナラスヤ等彼
一流ノ理想論ヲ列ネタルニ付小官、私見トシテハ美
認問題ハ頗ル重大ナル問題ニシテ殊ニ貴説ノ如
ク南北兩政府ノ發現ヲ見タラシムハ益、困難ヲ加フ
ヘク支那ノ有スル列國關係ノ複雑ナルニ顧ミ仰
ノ華固トスル政府ノ確立セラレサル限リ何レノ國ト雖モ然
ク容易ニ美認シ得ヘトハ認メラレス此種ノ豫想ヲ
打算ノ内ニ置キテ計畫ヲ立ツルノ最モ危險ナルヲ説
示致置タル様ノ次第ニシテ少クトモ我方ノ同情ニ依
賴シ居レル傾向アルモト考ヘラル

要之袁ニ對スル國民黨領袖ノ反感ハ頗ル激
烈ニシテ目下到底平和ノ餘地ナク議會開会

在上海日本總領事館

百三

後袁世凱ノ動靜如何ニ依リテハ更ニ大紛擾ヲ
醸ス事アルヘク袁ノ手腕ニ依リ都督以下ヲ籠蓋
スル等危機ヲ一轉ニ得ルニ非ル限リハ袁ノ権カヲ保
持スル限リ少クモ南方都督ノ連署勸告ニ次キ連
衡ニテ命ヲ奉セス一時南北對峙スルカ如キ形勢
ヲ現出スル事ナキヲ保シ難シ其間宗社黨等ニ
至テハ鄭孝胥等ノ談話ニ照ラシ袁ニ對スル反感
ノ念ハ甚タ熾盛ナルモ未タ何等ノ畫策ナキモノ
如ク尚ホ形勢觀望中ニアルモノト認メラル
右拙電確々旁觀測ノ儘何等カノ御案考
進報告申進候敬具

在上海日本領事館

朱

受第... 四... 次

電報

大正二年 月 日 接受

四月 十日 午後八時 十分 著

參謀總長宛 在北京 青木少將

本十日李盛鐸、言に依り孫逸仙、召集ニ應
ジ廣東、江蘇、江西、湖南ヨリ代表者ヲ出シ上
海ニ軍事會議ヲ開クトノ諜報ニ接シ政府ハ一
層對方ニ對スル注意ヲ増シ之ニ對スル準備ヲ急
ラス若シ對方ノ態度ニシテ変ラサル時ハ其衝突ハ
免シサルヘク但シ北方ヨリ先ニ手ヲ出スガ如キコト

ハ萬ナカルベシト

支第ニ四〇六號

電報

大正二年

月

日接受

四月十一日 午後一時三十分發

參謀總長宛 在任地 齊藤少佐

小官ヨリ北京ニ於テ國庫賣收セウレ又報罪確定セザ
ル内ニ大統領撰挙スルコトナリ至極平穩ナリト云フ
決心如何ト問ヒシニ黃興及參謀ノ言ニ據レハ繼ヒ如
何ナル情況トナルモ正式大統領撰挙前ニ北京政府ノ
非行ヲ發キ袁世凱ヲ覆ス計畫ニテ裁断ヲ長
引カスモ當方ニ在ル材料ニテ充分ナリ又中ニモ北方
軍中ニモ袁世凱反對多ク滿人ヨリ成ル禁衛軍、
北京巡警ニモ手ヲ廻シアリ故ニ北方軍隊モ今恐レル
ニ是ラザルノミナラス北ニモ事起ルヘシト語レリ

宋

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

陸

暗

牧野外務大臣

有吉供領事

上海費大正二年四月十三日

四月十一日會審衙門ニ於ケル應夔亟ノ審理ハ
多クハ各辯サ護士ノ辯論ト既ニ公ニセラレタル暗
殺當時ノ事實ノ口供等ニ費ヤサレ格別新シキ事
實ノ提供ナリ今十二日引續キ開廷レ被告糸護
吉事件ノ政法犯タルト其重大ナルコトニ言及レ
且犯人ノ政府ノ官吏タルニ付其向ノ命令ニ及
遂行セサルヘカラス然ラサレハ其職ヲ失フニナラス一身

上院各老

上ノ危険、瀕スル虞アリ等ハ之ヲ斟酌セサルハカラス
ト述ヘ國內ニ於テ二黨ノ對立、情況及犯人ニシ
テ其敵黨ノ支配スル法廷ニ引渡サル時ハ非常
ニ不利益ヲ受クヘシトテ特別、組織セラルル法
廷ニ於テ審理セラルヘキモノナリ等ノ理由ニ依リ特
別法廷ニ引渡ノ論ヲ主張シ程都督代表
衆護共其当然程都督ニ引渡サルハキモノナ
リ唱ヘ公明極會審官ハ之等ノ諸矣ヲ考テテ
領事國ノ法廷ニ一任スルコトトシテ茲ニ會審衙
門、審理ヲ終シテ密ニ閣シテ四月十五日開會、領

事國會議、議、附スルモトナルハ、陸電カ五〇号
報告レタル通、如ク英國領事ハ當該官憲ヲ
ル程都督ニ引渡スニ傾キ有リ右ノ趣意最も
妥當ニシテ他ニモ異議ナカラント考フルニ付多分右ニ
決定スルナルハ、引渡後ハ黃興等ハ程都督アレ
テ特別法廷ヲ組織セシメ審理セシムル計畫ナルヤ
ニ察セラル

参考文

宋

大臣
次官

政務

通商

人事

會計

報告

條約

陸

廣東省 大正二年四月十三日 辰二〇〇
東京著 九二〇

赤塚總領事

宋教仁事件以来ノ國民黨ノ態度、聞レ昨
夜都督ノ極メテ内幕ニ本官ニ語ル所ニ依リバ
國民黨ハ黨議ヲ以テ黎元洪ヲ大總統ニ推シ
リハフトニ決定シ又都督ハ袁世凱ヲ推シ
為武力解決ヲ要スル場合ノ用意トシテ兵ヲ整
ヒ置リベリ内訌ヲ受ケヌリト云フ都督ノ語氣
ヨリ察スルニ袁世凱ハ金力ヲ以テ國會議員ヲ
上院各先手ニシ

買収スベク議會、程テ堂々ト率フモ國民黨ノ
失敗ニ似スル虞アリ去リトテ南北分裂ハ支那滅
亡ヲ意味スルモノナリトテ来リ確メテ定見ナキ
モノ、如シ廣東人ハ平素極メテ口喧シキニ似ズ
本件ニ付テハ國民黨側モ新聞側モ立入りテ議
論スルモノナク皆ナ沈黙ヲ守リ慎重ノ態度ヲ持
シ居レリ但シ本日ハ當地ニ於テ盛大ナル集會
博會ヲ催フス義尚都督ハ今後時局ノ發展
ヲ小官ニ内報スベク約シタルニ付隨時報告ス
レ本報参考也

右在北京公使在上海領事。電報シタノ漢に
天津、哈爾濱、香港。郵送ニノリ

宋

元

號受1247第

大正貳年四月拾四日接受 主務 政務局

機密第二二號

大正貳年四月五日

在南京

領事 船津辰一郎

外務大臣男爵牧野伸顯殿

宋教仁暗殺事件 南京應民政長來談ノ件
本日江蘇民政長應德園來訪宋教仁暗殺事
件、南京官ト對談ノ要領ヲ摘記スレハ左ノ
如シ

一應桂馨(一名應漢丞)ト洪述祖トノ關係
應ト洪トハ共ニ無賴ノ徒(民政長派派ト稱ス)

ニシテ如何ニ惡事ヲ行ハシメテ之ヲ爲ス處ノ
人物ナリガ隨テ之ヲ利用スレバ多ク役ニ立ツ
アリ、而シテ彼等兩人ハ南北呼應シテ中央政
府ヲ喰物ニシ居リシナリ、彼等が最近最モ強
北京政府ヲ刺激セシムル爲メ國會團一ノ件ナリ
其團が南方ニ於テ何等勢力ナリハ中ニ其存
在ヲ知ラザンモノアリ、今ハ彼等中央政
府ニ向テ作ラセシメ之ヲ吹聴シ今ニ於テ之ヲ解散
セサレハ後日噬臍ノ悔アリト稱シ之ヲ利用シ
應、洪、兩ノ巨額ノ運動費ヲ看服シ其他
政黨間ノ競争ヲ弄ビ貨トシ南方ニ於テ國
民黨其他ノ秘密結社等ノ部靜ヲ探査ス
ルノ任ニ當リシモノ、如シ過日梁士詒が廣東赴

支那の政治の発展を促す

カレトシ途次當地に立寄り頻りに前記歡迎國
會團ノ事ヲ執心尋ね所アリシヨリ案レ
テ北京ニテ如何に右國會團をシテ重要視
シ居ルヲ想ひ及ぶるに足らん是等ハ全ク應
兩人が互ニ相結托シテ等ヲ利用シテ私腹ヲ肥
サレトセシメ居サレノミ

二應が江蘇巡査長トナリシ事情

應が有名ナル無賴漢ナルハ早クヨリ知レ渡リ
居ルヲ以テ程都督ニテ彼ヲ用フル意思毛頭
ナカリシニ洪ヨリ怨心々々依頼アリシ因リ又中
央政府トモ多ク聯絡ヲ有スル如ク見受ケレ
テ以テ勇彼ヲ上海ニ移シ諸般ノ探偵ヲ屬托
スルトナレ彼ハ駐滬巡査ノ名義ヲ興フルト

ナレタレハ彼ハ勝手ニ江蘇巡査長ト稱シ居リ
ルモノ如ク要スル事情ノ如何ハ拘分ス應洪ノ
如ク人ヲ利用セシメハ中央政府ハ勿論地方
政府ハ亦テ非常ノ失錯ナルヲ免レズ此點ニ
對シテハ充テ其責任ヲ負フ外ナレト信ス

三宋教仁暗殺ハ全ク應洪等が私腹ヲ肥ス爲ニ

洪宋祖が趙總理ノ秘書官ナリシ處より今國
宋教仁ノ暗殺ハ全ク北京政府ノ使喚ニ出ケレ
如ク想像スルモノアリハ大ニ尙妻ナリト思フ
全ク應洪等が私腹ヲ肥ス爲ニ演シテ活劇
ニ過スルト信ス洪ト應トが互ニ氣脈ヲ通シ居
レハ事實ナルハ早シク趙總理カ宋暗殺ニ

閉し其相談に依り居りしや頗る疑ひを感ず
 や青柳總領が同接に之を使喚しんモノナリ
 ト一談ノ如キ金ノ持摩腹臆測に過すモノナリ
 二足ヲサレモノナリ
 四本件に對し孫文黃興ノ態度
 國民黨員中ニ本件に對し頗る過激ノ議論ヲ
 爲スモノアリ孫文殊々黃興ニ多ク極メテ穩
 健慎重ナル態度ヲ持シ宋教仁ノ横死ハ實ニ
 悲ムモノナリ本件ノ爲ニ無益ノ風潮ヲ惹起シテ
 民國建設上一頓挫ヲ來ス如キヲアラハ是レ私
 人ナリ以テ國家ノ大事ヲ誤ルモノナリトノ意見
 ナリ持シ又本件ノ善惡裁判ニ附スルハ或ハ控
 訴ニ控訴ナリ重キ徒ラ遷延セシムルノ
 慮アリサ以テ此種ノ煩ヲ防グ爲ニ特別裁判
 所ヲ設ケ得策トナストノ意見見サ存シ居ん
 事ニ關シテ目下孫黃程都督及自々(應德閣)
 事ニ研究協議中ナリ
 一本件に對し程德全及應德閣ノ態度
 程德全ハ本件に對し何等自己ノ主張及意見
 見サ發表セズ只一面中央政府ノ訓令ヲ奉シ
 一面孫黃等ノ意見見サ聴取スルノ旨自々應德
 閣ニ別ニ何等意見見サ示スモノナリ本件ノ何處迄
 テ法律ノ準據レテ處理レサレモ曖昧ノ處置
 サナサレモノナリト信ス今後審理ノ結果
 意外ノ變ハ波及スルヤモ計ノ難キモノナリ
 詎據ニ據リテ慶新セハ案外平和ニ且迅速ニ

解決せんを得んす。と思ふ。云々
 以上、應氏談話、大要ニテ、頗る樂觀的又大ニ袁
 趙ノ非護セ、如キハ、ア、リ、ミ、ナ、ク、今、傳、ハ、ウ
 リ、所、ノ、國民、党、力、非、常、ニ、激、昂、レ、國、會、開、會、ノ
 時、ハ、極、力、袁、ヲ、彈、劾、排、斥、シ、時、宜、ニ、依、リ、テ、再、ヒ
 兵、戈、ニ、訴、フ、ン、セ、辭、セ、ス、ト、ノ、意、案、ハ、ア、リ、云、々、ノ、説
 ト、大、ニ、運、庭、ア、リ、テ、盡、力、シ、テ、信、シ、難、キ、時、節
 板、御、考、テ、進、行、ス、ル、カ、儘、及、報、告、候、政、具、
 送、テ、奉、答、ス、ル、北、京、ニ、使、シ、上、海、漢、口、各、總、領、事
 及、才、五、艦、隊、司、令、官、ニ、モ、送、付、及、呈、候、也

23

六

阿部老台傳

友



山社集

六
七

仁濟本總發行

際、宋教仁暗殺事件ハ袁一流ト意外に
深中肺絡ヲ有シ、斯レ其確証日々露フルニ
從テ明白トナリ、當部袁一派ハ王度亮乃モ此案
社説、所為ノ帰セント在テ然モノ、如キモ事實
曝露ノ結果應流等ノ私人的關係ト此輩
政府ト、聯絡証明隱、煙藏ト帶ソントシテ、アモ今
日ナラズ、其效果何ゾモト、社何ヤ仲ト云ラン
孫黃始、又以老流、激憤ハ頗ル強烈ミシテ

殊、青層審衙門に於ては根據調査進行
ニシテ豫算等福利政策の大計畫を以て意見
ハシメタル者老決意益強固ナル如ク相
相認、又案件發生以來當の果個人トシテ病
狀且蘇^會又蘇^會此レ其光、激憤ヲ實視し具
ハ昌未^會了、後何^會同付基也^會孫黃等、
日、會晤以テ水交^會面、件々美言表
一派退讓セサル限、然ント解決ノ方途ヲ探
在上海日本總領事館
有尤、袁世凱ハ亦當時具フ、昨年来為毎
政老勸告、袁帝位ト題ミ一言ナリ置キ
通リ時機ノ業ブルヲ示シ、最終目的ハ皇
帝トシテ君立ス事憲制ガウシメントスルアリト認
ム。是レ實ニ孫黄及カ地ニ於ケル其私見ハ張謇
陳也人ト評ハ、袁帝位ヲ否認シ余ヲ重キ留
カサリシエ、右ニ孫黄等が全ク趙秉鈞梁士
詒等カレバシラシメント認メカ袁、帝位ハ能自身
例

於テハ如何ナル障害ヲ排除シ是水トモ 帝位ニ就
 カントモ水ヲサントシテモ袁、秋、趙、梁、及西段
 (補瑞) 等が確實に勢力ヲ得テナク、改權ヲ掌握
 スルハ居リ、如キ若キ政治ノ下ニ各種改革ノ機微
 ナク、舊リカスル如ク不便ミシテ今日ノ社会ニ其利益ヲ
 實現シ置リ、如何カスト致シ、シムルヤト被仰
 下ニ然者、從來、歴史、鑑ミ、片日ヲ以テ流
 弊如何ノ憤慨スルモ、又、然否ミシテ袁ヲ重
 要視ス (例ハ、劉が袁ヲ重要視セザルモ袁は劉ノ
 城白己ノ病氣ヲ不徳ヲ名トシ、劉ト引退ノ意ヲ漏シ
 袁面ニ於テ軍隊其他ノ人エラシテ袁ヲ挽留セシメ、一面劉
 又シテ袁ニ引退セバ各者ノ紛糾トテ秩序付カザンモノト
 懸念セシメ、一方袁ヲ諷シ結局袁ノ外、人ノ手加ヘ
 袁種々方策ヲ用テ軍隊其他ノ甘撫ヲ待ミテ
 陳黃等、破スルカ如ク退讓スルト、等付之モ

☆
 此等りて
 二テモ件に付
 八日ハ黄
 上南漢ニ付
 ト内北漢
 外

ノト被仰、理、黃興、如、例、手、勸、告、等、ニ、付、裁、ハ、決、シ、テ、退、讓、リ
 ナ、エ、ノ、ウ、テ、此、等、方、面、に、於、テ、同、意、ヲ、リ、密、執、ス、ル、ガ、事、は、固、平、和、ヲ、望、ム、ニ、モ、
 シ、ニ、軍、隊、及、巡、査、ニ、對、シ、テ、ハ、未、ダ、準、備、ヲ、著、
 キ、シ、軍、器、ノ、如、キ、ハ、蒙、古、同、題、也、ハ、口、實、ヲ、
 独、ニ、其、也、ヲ、購、入、シ、店、に、集、情、ヲ、内、務、政、成、
 而、シ、テ、未、越、一、派、ハ、一、面、方、地、層、審、衙、門、に、於、テ、
 ル、層、審、衙、門、に、對、シ、テ、ハ、可、成、政、策、ヲ、聯、絡、証、據、
 煙、滅、方、付、英、佛、等、自、覺、派、ニ、即、作、業、
 ニ、ウ、テ、其、派、一、面、裁、多、自、覺、派、亦、即、人、前、記、部、
 侍、市、王、錫、其、藩、等、十、余、名、ノ、方、地、ニ、未、基、シ、店、
 シ、東、漢、也、ヤ、シ、メ、メ、ジ、コ、ア、ハ、イ、ン、ス、前、天、は、巡、査、局、に、願、
列、英、秘、魯、等、其、他、ノ、聯、絡、シ、テ、同、意、ヲ、得、テ、其、他、ノ、懸、念、ヲ、解、除、セ、
 同、ミ、テ、此、等、方、地、阿、比、巡、査、局、ノ、願、同、意、ヲ、得、テ、其、他、
 以、系、ニ、懸、念、シ、人、知、リ、ヲ、方、地、ニ、特、派、シ、テ、外、に、對、
 阿、比、巡、査、局、ニ、軍、器、及、シ、メ、店、ハ、併、シ、會、審、衙、門、ニ、即、例、
 裁、判、作、業、ニ、關、シ、テ、ハ、如、キ、エ、ニ、密、執、ス、ル、ガ、証、據、如、件、ノ、事、ハ、固、平、和、ヲ、望、ム、ニ、モ、
 生、勝、殺、對、ス、ル、必、死、之、ヲ、懸、念、ス、
 本、件、ノ、要、點、ハ、概、要、隨、時、民、報、ニ、テ、宣、報、ス、ル、如、

☆

クミシテ犯人ト此系ト聯絡破証ノ日々増加スル
 毎ニ袁趙排斥ノ決心益堅リ殊ニ袁趙派
 於ラ帝政大計畫ヲ詭據一端ノ意見セラル
 ヤ張勳、趙鳳昌等ノ殺サントスル計畫ニテ口
 實トシテ先ヅ湖北旧民社ト聯絡ヲ計リ且ツ
 他党即共和民衆党等ニ対シテハ專制ト共和
 ノ美稱ヲ説キテ感情ノ融和ヲ計リ可成共和手
 段ノ應酬ヲ以テシ五人ノ指摘ヲ受ケル按ニ努メ
 在 上海日本總領事館
 各員黨員ニ対シテハ秘密ヲ嚴守セシメテ大ニ自
 党内ノ結束ヲ固クシ自先將來ノ自衛ヲ切言
 シテ相互排擠ノ紛擾ヲ辟ケシ自先戒嚴武
 闘ニ対シテハ今日ハ自先ノ決心ヲ公表セシメス
 單ニ宋暗殺ノ件ニ至ル層層審問懸待シ
 大書セシメ先ヅ各員ニ於テ袁ノ彈劾書等ノ
 平和手段ヲ以テシテ大平和手段ニ到底袁派ヲ
 シテ退懷セシムル能ハサルヲ自先カ故ク有

同老都督及覺星に對シテハ、**官密カニ**、戰時ノ
 準備ヲ計ラシメ、**(現ニ福建師團長許崇智ノ如**
キニ) 豫止此系ヲ為セテ、經テ歸國、豫省地高
 田、商會ニ軍器購入ヲ計リ、甚ニ其意ヲ示サセ
 三井物産ニ對シテ軍器ノ商議ヲ進マツル
 尚、**第一**、**城**、**右**、**ト**、**シテ**、**戰**、**費**、**支**、**出**、**リ**、**各**、**省**、**ニ**、**於**、**テ**、**同**
 老都督ニ商議中ニシテ、**已ニ**、**相**、**為**、**ス**、**ル**、**額**、**ヲ**、**商**、**議**
 已ニ、**申**、**入**、**ル**、**付**、**ハ**、**ラ**、**ン**、**難**、**色**、**此**、**方**、**ノ**、**十**、**三**、**師**
 在ニ海日本總領事館
 國ニ對シ南方ノ十師用ニ、**南**、**北**、**對**、**シ**、**テ**、**陸**、**南**、**方**
 ノ兵數及軍器ニ於テ多ク薄弱ヲ見セザル
 シテ、目下北方軍隊也、**於**、**テ**、**同**、**兵**、**ノ**、**反**、**乱**、**ス**
 袁友威ノ方々、禁衛軍利用等ヲ要策
 せん、**如**、**ク**、**又**、**宋**、**暗**、**殺**、**ノ**、**裁**、**判**、**工**、**業**、**シ**、**テ**、**ハ**、**當**、**初**
 程、**樓**、**屋**、**等**、**ハ**、**北**、**京**、**ノ**、**内**、**命**、**ヲ**、**奉**、**ジ**、**テ**、**居**、**リ**、**シ**、**モ**、**黃**、**興**
 等ノ壓迫ノ為メ、**程**、**中**、**ニ**、**梁**、**ト**、**シ**、**テ**、**黃**、**興**、**等**、**ニ**、**對**
 シテ、**全**、**然**、**南**、**方**、**側**、**ニ**、**歸**、**セ**、**シ**、**モ**、**、**、**如**、**キ**、**蘇**、**皖**、**等**、**方**

中華事件が全部支那側に向けられ
 ル故に程部増應民政長陳嘉庚使等
 多層下特別裁判ヲ用キ其間也民党更
 一類名義ヲ演義判ニ戻ル此系ト
 聯名印據ヲ破得シタル上之ヲ在之ニ表シ又民
 人道義乃至同情ヲ誘起シテ表紙下
 為ラント準備目ヲ計リテ兩一旦露露此
 封ミテ要たハ米多ク日軍資存ラ御
 得ント露露ヲ自今トハ易々来行掛上
 特別密接ミ至係リ持統ニテ同情且ツ後
 接ヲ得ントミ妙カハ押推客ヤウレ外而シテ
 大援助トシテハ南北封ミ際ニ於テ軍用者
 輸入ミシテ目下南方軍隊ハ何レモ相方武器ヲ
 力タルハ重戦射トヤハ漸次編隊編制要
 了（理）黃興一派ニ於テ兵士募集ノ計画アリ）
 要スル五師團ノ軍用者トミシテ若シ大軍者

ヲ得ルヤハ第一南北討三瓦南方ノ攻
能ハ出スル能ク守勢ヲ取ル外ナカラシ
ト相違ナシ

又内地方面海軍ニ討シテ人民先ヲ種々
動搖果爾ニ聯防海軍一掃空軍果
輸不^{軍艦}如^{軍艦}海軍乃其海上軍器引受セ
シトノ意思ヲ指スモノ、如ク之ヲ要スニ面

ヲ付ニ討スル民老^{軍艦}鮮^{軍艦}決心ハ彼等自衛
在上海日本總領事館

上ヲ打撃せんモト見ヘ然レ強固ニシテ而チ其態

ガ表面可成^{軍艦}靜シ然レ内實ハ然レ激
憤せん、實態ニ指シ易^{軍艦}山^{軍艦}北方方面情報

己バ先^{軍艦}派ハ表面平和ヲ装ヒテ各々討シテ大
事ニシテスレテ時分ヲ收拾スルモノナリトナリ

唱^{軍艦}ハ、意圖ニ於テハ已ニ密カニ各地要處ノ軍
隊ニ討シテ準備ヲ命ジ或^{軍艦}地如キハ已ニ其ノ配置

終リタリ、^{軍艦}トテ北方ニ於ケル人民先派ヲ此方

内情ヲ類トシテ通報シテ、上海方面ニモ
 袁派ノ往來之多キヲ、同報此方ニモ、陸軍部
 其他、國方面、又民衆派多キ為、双方ノ秘密
 計畫、其、双方、通、之、トモ、方、探、知、者、等
 於、テ、モ、重要、人物、ノ、数、主、要、人物、ノ、一、ニ、ヨリ、テ、高
 議、院、ニ、シ、テ、テ、轉、向、他、派、漏、洩、ル、ハ、決、然、
 否、イ、カ

各党派側ノ態度

在上海日本新聞

各地、於、テ、民、衆、及、討、老、見、其、民、衆、派
 側、態度、ハ、方、即、深、暗、殺、害、件、最、生、者、分、ハ
 早、シ、宋、ノ、吊、詞、ヲ、掲、グ、ン、ニ、テ、中、外、ノ、重要、親
 友、多、ク、討、老、ノ、大、災、視、シ、居、ル、情、向、アリ、シ、モ、皆
 カ、北京、ノ、聯絡、証、據、漸、少、故、見、タ、ル、ニ、ヤ、居、ル、
 於、テ、ハ、其、私、民、之、二、派、ハ、能、ク、中、立、ノ、姿、ト、ナリ、テ、先、ヅ
 沈、黙、ヲ、守リ、居、ル、袁、機、能、見、統、一、変、計、則、
 難、ク、早、シ、沈、靜、視、ス、ル、止、マリ、敢、テ、又、民、衆、派、激

ル、ヤチヤハ、其、判、明、ヤ、宋、子、仲、ハ、確、カ、此、宋
 ト、實、係、リ、有、シ、袁、趙、一、派、ノ、手、段、ハ、常、ニ、斯、ク、權、謀、
 的、運、算、ノ、ミ、ミ、弄、シ、以、テ、底、ニ、民、ヲ、シ、テ、信、服、セ、ン、ト、定、ム、
 今、國、機、ヲ、仲、リ、即、チ、袁、派、ヲ、民、衆、ト、一、大、反、目、
 リ、惹、起、セ、ル、原、因、ハ、ベ、シ、ト、テ、袁、一、派、ノ、若、キ、段、ヲ、
 惡、罵、シ、居、ル、又、沈、子、培、(即、チ、馮、銘、ガ、東、主、婦、
 在、中、沈、子、ノ、慶、親、ヲ、言、フ、湯、某、セ、シ、實、係、ル、人、物、)ニ、
 去、月、中、旬、會、見、シ、目、下、同、人、ハ、伊、教、會、ト、長、ト、シ、
 在、上、海、日、本、總、領、事、
 全、ク、以、此、の、情、治、リ、懸、ケ、存、ン、モ、確、カ、リ、方、也、
 君、等、派、ノ、重、要、人、物、ト、シ、テ、目、下、情、勢、ハ、果、ス、
 機、會、ヲ、撰、チ、居、ル、如、キ、モ、差、當、リ、未、ダ、其、他、的、
 計、慮、ナ、キ、如、ク、道、ニ、袁、某、セ、ン、李、瑞、清、ハ、本、日、
 日、方、ヨ、十、日、也、豫、定、シ、テ、去、月、中、旬、會、見、シ、
 ニ、シ、テ、又、赴、キ、タ、ル、モ、ト、確、カ、リ、何、レ、同、人、帰、郷、會、見、
 上、山、勸、導、查、査、政、務、ヲ、升、輝、毓、昌、ハ、去、月、初、ヨ、
 張、勳、及、青、島、ニ、赴、キ、タ、ル、形、跡、ヲ、止、ム、
 帰、郷、安、

是考即ハ目下為地場在中たるも同人ノ腹案ハ
易ト云リ●宗社党ノ計画ニ准テ自覚シ
ルハ如ク且ツ袁世凱派ノ多少ノ関係ヲ有スルヲ
ヤ昨日モ未だシテ袁ノ分子袁克珊が目下為
地ニテ其内日中ノ遊蕩ノ者復見付一云何ヤ
スハヤ●^{イザナ}層見方ヲ^{イザナ}佐藤^{イザナ}少ナリ

之ヲ要スニ宗社党モ今俄カニ其地^{イザナ}の^{イザナ}討^{イザナ}
起ス據據^{イザナ}キモ時局ノ^{イザナ}如何^{イザナ}ハ何事^{イザナ}ナ
在上海日本^{イザナ}

多少ノ小動シ起スヌト推測セラル但シ同党
ノ^{イザナ}討^{イザナ}起^{イザナ}スハ^{イザナ}同^{イザナ}党^{イザナ}ト^{イザナ}同^{イザナ}様^{イザナ}ナモ^{イザナ}到底^{イザナ}同
党^{イザナ}ノ^{イザナ}氏^{イザナ}党^{イザナ}ト^{イザナ}提^{イザナ}携^{イザナ}ノ^{イザナ}連^{イザナ}絡^{イザナ}ヲ^{イザナ}計^{イザナ}ル^{イザナ}ベシトハ^{イザナ}斷^{イザナ}シ
難^{イザナ}シ

今午時分ノ條則

考知^{イザナ}ル^{イザナ}方^{イザナ}面^{イザナ}情^{イザナ}況^{イザナ}既^{イザナ}述^{イザナ}ノ^{イザナ}如^{イザナ}ク
袁^{イザナ}が^{イザナ}退^{イザナ}讓^{イザナ}セ^{イザナ}ル^{イザナ}限^{イザナ}リ^{イザナ}各^{イザナ}面^{イザナ}此^{イザナ}紛^{イザナ}争^{イザナ}ヲ^{イザナ}起^{イザナ}
スル^{イザナ}自^{イザナ}然^{イザナ}ノ^{イザナ}道^{イザナ}理^{イザナ}ミ^{イザナ}テ^{イザナ}其^{イザナ}結^{イザナ}果^{イザナ}果^{イザナ}ナ^{イザナ}南^{イザナ}北^{イザナ}何



しか勝利を得べきか固く不明なり。少民党
 側ノ激憤ハ極上ニ達スルヲ俟テも、屋南山
 村主トシテ南京政府時代ノ歴史ニ鑑ミ或ハ迷
 中ニ入ル南改各協同懸ノ前途ハ~~甚~~甚
 ヤ又阻ハキモ何カ片党ノ意見ニ勝リ且ツ
 先陣トハ多ク少ク情ヲ異ニ此方モ少民党派ノ
 人士各也。敵在シ~~意~~意~~義~~義凱流トテ從來秘党ノ
 旧部下リ除ケル何レモ時局觀望者ニシテ優劣ハ
 在^{上海日本總領事館}
 方ニ服従スベキガ~~性~~性格ト且ツ少民党側
 ノ結束堅ク同党分子ハ死ヲ覚レザン道~~激~~
 角子多キガ~~假~~假一歩ヲ譲リ~~勝~~此方勝
 利ニ歸ルハトシテ天~~將~~將來暗殺其也、~~中~~仲介起
 シテ~~方~~方~~多~~多~~ク~~時局ニ~~俄~~俄カニ解決~~接~~接触到~~リ~~リ~~ベ~~ベト
 確~~例~~例~~也~~也
 在^方方也、近状ハ~~考~~考~~テ~~テ~~止~~止~~ハ~~ハ~~中~~中~~内~~内~~報~~報~~中~~中~~止~~止
 何レ案ヲ~~件~~件~~ニ~~ニ~~対~~対~~ス~~ス~~ル~~ル~~ハ~~ハ~~水~~水~~ノ~~ノ~~及~~及~~他~~他~~党~~党~~風~~風~~情~~情~~態~~態



夜ッ今更に具儀的ニナリ先上様御了
 出スル朝方よりアトヤモ茲に早
 今更に内情、内報、止、ヤサ
 一、本月吉日男子出産御下命名
 江、奉、直歩ナリミテ少供計リ作ル
 懺悛、心分ミカモ長ク作ラテ知
 ノ、尽サレ方、オニ人ノハムト、毎朝
 英語通テ生徒、安何ト、作可
 在、海、山、本、殿、御
 笑、不堪ナ、尚、信、ノ、都、存、テ
 乙、思、テ、要、シ、外、年、判、讀、可、ナリ

宋

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

條約

法

上海農大正二年四月十五日
本省著
牧野外務大臣
有吉総領事
第五九號

宋暗殺事件、関し四月十五日、領事會議、
葡萄牙其他二三、小國領事、異議アリ、
佐司犯人應變至又證據書類一切、程
都指、引渡スト、決し、但組織せし、
廷 (Regular constituted court) 於、公平、裁判
セ、ハ、キ、旨、都指、保障、ヲ、(右ハ、主トシ、軍法會
議等、依、處分セ、ハ、ル、トナ、キ、保、為、一、注意、
込、各、先、ち

出、(主面、)以テ受取、決、直、一、切、引渡、方、會
審、衙門、ニ、命令、ハ、キ、旨、主席、領事、ヲ、交渉
使、經由、都指、宛、主面、ヲ、發送、ス、ル、トナ、リ、會議
中、證據、書類、中、重要、ナル、モノ、トシ、テ、金、審、官、
リ、提出、セ、シ、後、電、報、ノ、英、譯、朗、讀、アリ、タル
モ、既、報、分、外、折、ハ、ン、モ、ナ、シ、尚、佛、國、總、領、事
ハ、其、保、管、中、ノ、主、類、ハ、別、般、重要、ナル、モノ、トナ、ル、
先、方、リ、請求、信、封、交、附、ス、ヘ、シ、ト、モ、萬、事、同、一、取
計、ハ、出、ッ、ハ、キ、旨、中、ノ、決、
府、公、使、ハ、電、報、局、

大正四年四月十六日花巻
西田明子

阿部老台集

羽啓陳、宗教に事件、左現都督、信託

ヲ得テ、初必、引込ス、トニ決シ、大審院、門、於

カ、審理、概要、将、信、部、各、通、リ、指、

示、而、シ、テ、中、外、一、致、シ、以、事、及、方、面、ヨリ、實、報、無、

情、報、等、何、レモ、東京、某、コ、ル、付、大、仰、形、勢、ニ、

在上海日本總領事館

由、看、取、事、ト、相、シ、テ、如、キ、事、生、テ、勿、論、何、テ、

聖、セ、ザ、ン、ト、知、シ、テ、其、事、部、ト、由、来、裏、裏、

其、易、者、裏、裏、ト、知、テ、探、査、シ、置、カ、レ、ハ、将、来、ノ、觀、望、

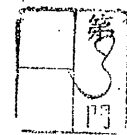
シ、ト、ミ、誤、認、ス、キ、期、シ、難、ク、テ、其、易、者、裏、裏、

探、査、ス、ル、際、至、難、ミ、テ、正、確、ヲ、得、ル、ト、云、ハ、致、シ、キ、

ナル、大、南、北、中、心、の、人、物、末、南、の、内、外、テ、ア、リ、シ、テ、其、決、

意、ヲ、確、シ、具、ハ、各、方、面、人、々、其、意、及、情、報、ヲ、信、信、

考、ト、モ、其、一、事、件、ヲ、決、行、セ、ン、ト、ス、ル、際、シ、テ、ハ、南、北、中、心、人、



山はまうら
二

此事要之皆生也
 北軍武漢之流連して
 漢派ト強者一派ト聯絡シ絶テ一方南京方面ニ於テ
 九龍山土匪ヲ蜂起セシ同土匪ノ實体ハ解散兵乃地方
 手難ク往ナル北京者流及張勳等ヲ煽動シ居ル形跡アリ現
 在捕ラント匪中ハ北京ヲ重要視有ス又黃興等モ
 探偵^本士^本匪中入レシ居ル内情ハ甚興著ナリ都若シ来リツアリ
 右聲威名トシテ張勳、徐州附近ニ出スヤ城角
 衆ニハアハ奥南不センテ人民老幼ノ武力の憤激ヲ
 在上海日本總領事館
 阻止セシメントテ議々々云張勳加りタル方ノ二
 將中ハ異議ヲ唱フルモノアリ其害ヲ去ラザンニ
 大抵右ノ活字ハ情報黃興下ノ境ニ依リ
 最近武昌兵變及張勳ノ徐州出兵ノ説見カ如キ
 又北軍ノ小部隊ガ江寧僅駐留ノ廣水驛迄南下セザ
 如キハ北方態度ノ一端ヲ示スミテマヤトス認メラレタ武昌
 兵變ノ如キハ甚異國主判明セザンニ要ス解散者ノ暴
 動ニ過ギズ表面ハ民衆ノ陰謀ノ如クニ對シ其心付

我軍服及不統
 右軍服一部ハ揚
 州ニ在リ此等
 初等ノ兵士ハ例
 外ニ激怒シ被擄
 運動シテ其後都
 督ハ此際ニ兵士
 已ニ後軍服ニ違
 リ見合ハシ同局
 長ニ命ジ大同局
 右軍服目下修理
 中ナリ其後分
 別ハスト同局
 長ニ命ジ

へ居ルモ少地雖舊ノ等ハ於テハ金大計重ク却テ
 然之漢等ト聯絡シ其心ヲ和シテ現ニ邊界暗殺設
 計ハリシ際モ強者若クハ臥せしむ黄陂ノ如キハ該
 兵等ノ少以テ其力ヲ得テ加入聯名ヤントシテハ金大計
 袁一派ノ作事ナシト内訌政体式面シテ方志派ノ如
 宋中仲ハ金大計應等ノ私的関係ニシテ袁趙ニ其
 係ナシト云フ一其聯絡證據ヲ減テ其ハ該兵等
 醫院ノコトトシテ其心ヲ和シテ其用ニシテ其心ヲ
 在 上海日本總領事館
 不得要領ハ其件ヲ掃清サントシテ外面ハ其平靜ヲ
 然之内ニ漢兵軍服及不統ノ等ノ軍備ヲ計ル
 事案ニ其兵等報知黄陂派ノ人士李書城等
 昭文等ノ内訌ハ其方々又其方々其地製造局保管ノ
 南方強黃等ノ態度ハ其方々
 強黃等ノ排袁法ハ其方々其方々其方々其方々其方々
 的ノ態度ハ其方々其方々其方々其方々其方々其方々
 秘密協議中ニ其方々其方々其方々其方々其方々其方々
 秘密協議中ニ其方々其方々其方々其方々其方々其方々

漢唐、於ハルハ動ハ全北ハ民走トシテ、
報シ来レルモノアリ又、是、此、
層ノ如キモ、
第ニシテハ民走、
層リ不、
汎ヲ除キ、
北方軍隊トシテ、
如キ、
中土師、
侵、
ノ、
將、
海、
利用セ、
是、
ハ、

在上海日本總領事館

王派ノ聯絡ヲ有シテトモノ呼又然元洪トハ
 破産ノ聯絡セシメキ節了山西陝西都督モ
 少民者トハ密接ノ關係ヲ現ニ河南軍隊ノ部
 々々及討者アリ之ハ常昭示ノ由也之ハカフニ各隊
 主要人ト中後之ヲ降ケバ大体ノ終ヲ表カ新人ノ
 主要地位ニ採用シ然ルニ以テ格ナリ事
 権謀ニラザルナキヲ懐疑シ居ル者朱子仲ノ是相
 其ニ正式証據ヲ尙長シテ、興端ヲ以テセバ
 在上海日本總領事館
 到底表ノ聯絡ノ不可能ト認メ之ヲ一責
 ノ議多ク置及此方表旧部下ノ軍隊降服ノ表ヲ
 擁護シ又宋親人ノ当地支那裁判ヲ不要トシ
 結局此重要中央政府移スルカキヤリラモ
 據サ、破産シ置カバ其ハ裁判ノ如キハ
 シラモ差支ナク海リ喚起シテ表流
 得ヤ、而シテ其際日ハ援助ヲ得ルニ止ラ量々ト
 南此討者計ハ得キモ差シ外ヲサレバ更ニ
 加海日ヤトシテハは據ル付着度セシメ不偏不黨
 加海日ヤトシテハは據ル付着度セシメ不偏不黨

印北方軍隊ノ懸機等ヲ意味スルナリ
 亦如何ニ障害ヲ来スモ排表ノ当初決心ハ
 変更セズト雖モ居リ
 貴族流ノ所言な決ハ斯リノ如キモ袁流ノ勢力
 此方ノミナラズ南方ニモ莫クテ隨分モ民
 意流ノ威ヲ有スルヲ固ヨリ居然ノ民意流
 福ハ如クやリ容易ニ袁ノ失策ヲ来ス下ヤ
 之ト思フヤモ何カモ當人ニテ多クハ優
 在 上海日本總領事館
 貴方ニ附隨スル性格ナルヲ袁流ノエトモ純
 袁流ノ陰ノ外ハ袁ミテ此境ニ臨シカ
 方ニ急度ナルト想像ニ雖カウサン付早
 外親ノ大勢ノミナハ少ク形勢ヲ觀測シテ
 之ト雖ハレカ大モ力先ノ激憤モ多ク大
 勢ニテ居然袁流ノ勝利ノ端ハ大部積ミ其極
 貴方排外モ其間袁ノ強ク信用博シキ段ヲ
 大ニ借欲ヲ成スヤシノ事ヲ必思フ得ルノ時機カシ

三、岸に臨黄一河首部ト多ク、新橋位
ニテ時局の業外平和ヲ得るヤモ難計キモ当地
ニ於てん所ハ其ノ情況ニテハ斯ク、如何容易ニ平
和ニ解決セラルベシトハ思フ難ク、即ち袁氏又民衆
ノ修接ト覺ル所也。右ニテハ宗社黨（同党の動向
何れも）見ルべきモノナシ、有起るニアラヘ大紛擾
ヲ惹起スベキモノト觀測セラル。

四、長門ノ事、少報告（三）至關重要ニ言及セラル

五、項上ニミテ、此方ノ情況著々重ニ子民貴
例ノ内報ナントシテ果タ確実ナル可成るカハ固
リ判明ヤサシム存安ニシテ此方例ノ情報ヲ報告
スルモノトモナシ。
（附）又南方ニテモ各等ノ北方ノ情報
ヲ採出シ却テ東進ニシテ破産ノ判斷ヲ与ヘン。

六、該ノ事スガ如キ下アリテハ面白カラズトモ思フ所
ニ早ニ當地ノ於テ開闢ノ地分ヲ定メ、以テ考テ
之、内地報ノ誤解ナク信ニ取ラズ、故ニ

宋

附屬書類添付

大正二年四月七日發受

善政務局

第

第

第

大正二年四月十日

在南京

領事 船津辰一郎

號受1303

外務大臣男爵牧野伸顯殿

宋教仁死後南京政界及書
影御音二附二件

宋教仁死後南京政界及書
探訪方在當地大阪朝日新聞通信員村山
勝平氏囑托致置候慶別紙一通提

出候付御参考右及達達候教員
信々布信字一北京云使上海漢口兩總領事
一云及付及置候也

宋教仁死後南京政界ニ及ボセル影響
国民党領袖宋教仁、國會、開會眼前ニ迫リ國
事ニ多事ナラントスルニ際シ北上ノ途次去月二十日
ノ夜半刺客ノ銃ヲ所トナリ滬寧鉄道上海傳
車場ニ於テ重傷ヲ負ヒ越イテ二日遂ニ前途有為
ノ材ヲ抱ヒテ逝去セリ彼ノ死カ南京政界ニ如何ナル
反響ヲ及ボセンカ今聞キ得タル所ヲ左ニ述ベントス
一、彼ニ宋教仁ノ死ニ對シ感想ヲ問フ時、何党何
派ヲ論セス皆均シク口ヲ揃ヘテ可惜ノ一言ノ外若
幹ナキヲ以テ是ヲ以テ見ルモ彼ガ一般民衆ヲ如
何ニ重用視セラレ如何ニ尊重セラレシカヲ知ルベシ
併シ是ニ民國建設ノ切勞者トシテ彼ヲ惜ム廣義ノ
贊辭ニシテ被義ノ解釋即チ彼ノ政見彼ノ個人の
性格ヲ付キテ各党各人其意見ヲ異ニセリ今左ニ
是ヲ記スレバ
国民党、国民党当地吏部長方潛氏ノ語ル所ニ
ヨレバ彼、国民党理事ニシテ国民党中最モ卓越セン
政治的性格ヲ具備セン畫策家ニシテ負抱モ大ニ政
見群ヲ援キ且唯一ノ実行家ナリキ後テ彼ヲ失ヘシ
国民党ハ恰モ片腕ヲ落セン感ナキ能ハス國會開會
憲法制定等ノ重要問題ヲ眼前ニ控ヘ彼ノ力ヲ待
ツ所大ナリシニ彼ノ抱負ヲ實現セシメズシテ遂ニ刺客
ノ為メニ倒レシメタルハ國民トシテ慨歎ニ堪イデ併シ
彼ノ党中ノ有力者タリシニ相違ナキモ国民党ハ彼
ノ国民党ニアラズ党中尚其人ニ乏シカラス幹部ニ
於テ多少ノ變動ニ免カレサルベキモ国民党ノ党勢

見れば、事々如き事、決シテ是ナリ殊ニ党基、動搖スル如キ事、万々アルベカラス、当地、於テ、是カ、却テ刺激セシ支那後援員、勿論党員一同激念シ、屬精勵シ、アルベキ將來党員増加アルベキ減サズルカ、如キ事、決シテ是ナリ現ニ有議、舍テモ九十四名、純体多數ヲ占メ、將來尚増加ノ見込ナリ、兎ニ南シ宋教仁ノ死、当地本党員、取リ却テ興奮、前トナリ好結果ヲ示シ、アリ

共和黨、当地共和黨員、語ル所ニモ、宋教仁死スト雖モ、國民黨中、孫逸仙、黃興等、尚出色ノ人物ニシ、ナカラス然リト雖モ、他、皆空想家又政界ノ實情ニ暗キ人ニシテ、國民黨中、真、政治的手腕、家ヲホムレバ、宋教仁ヲ措テ、他、是ナリ、實ニ彼、國民黨、取り唯一欠クベカラザン重要人物ニシテ、國民黨、政策、皆彼、心中ヲ編ミ出サレタルモノナリ、即チ國民黨、政策、取モ、直ニ彼、政見ナリト云フモ、過言ニアラズ、今ヤ、以、無ニ、政策、家ヲ失フ、國民黨、ノ勢、目見、即チ及ボシ、黨基、動搖ヲ来スベキ、必然ノ數ナリ、彼、國民黨中、無比、謀將ナリシ丈ケ、吾人、反對黨、取リテ、ハ、邪魔、物ナリシナリ、從テ、今、吾人、活動ニ便益ヲ共ニ、政策、実行ヲ容易ナラシム、事實ナリ、特ニ、江蘇、省、共和黨、根拠地ニシテ、衆議院ニモ十八名、議員ヲ出シ、國民黨、優ル、黨數名、省議會、舍テ、モ十八名ノ、純体多數ヲ占メ、張謇、其他、有為ノ人物、シ、ナカラス、黨勢、優勝ナル、当地、於テ、宋教仁ノ死、カ、本党、膨張ヲ容易ナラシメ、國民黨員、動搖ヲ生スベキ、本党

議員ノ増加近キ將來ニ於テ必ズ現象ナリ
民主党 民主党員ノ語氣和黨ト大同小異也其省
議會議員數ニテ名ト称シツアリ
黨派ヲ離レタル第三者ノ觀察ニコレハ宋教仁ノ國民黨
中唯一ノ智謀家換言スレバ權謀術策家ナリレ為メ
彼ノ存命中ニ意見ノ衝突ヲ來シ退舍スル者モ少
ナカラザリシカバ依テ於テハ如キ事ナリ却テ黨ノ調
和統一上好都合ナルベシトハ言ハ半面ヲ於テ興味
言ナリト信ス即チ彼ガ如何ニ手腕家ナリシカラ
例ニ得ルト同時ニハ如キ事ニ彼ノ性格上有り得キ
事實ナリシナリ宋教仁ハ大氣肌ノ人ニシテ縱横無
忌ニ畫策シ人ナリ通告ニ云ハハ切レ過ヤ人ナリ
為メ政敵モ多ク反対派ニ取リテ眼上ノ瘤ナリシト
同時ニ黨内一部ノ人ニ彼ト反対ノ意見ヲ抱キ多シ
軋輾アリシハオオ氣潑刺タリシ彼ノ性格上免カレ難キ
事ナリシト云ベシ併シハ細微ニ國民黨ニ於テハ彼ノ
大部カヲ蓋フベカラズ
尚曰ク國民黨ニ對シ杞憂ノ堪イザン一事ハ省議員
中國民共和、而黨ニ籍ヲ有ス者アリハ事ハ若シ
ニ宋教仁ニ死後共和黨ニ變スル者ナキカト
前述ノ如ク國民黨ニテハ省議員中九十四名ノ純体
多數ヲ占メ居レト云ハ共和黨ニテハ十八名ノ純体
多數ヲ占メ居レト云ヒ事實上何レカ多數ナリ一見
疑惑ノ念ニ驅ラルモ彼等ノ言ヲ所穿テ虚言ニモ
アラサルヤシソハ議員中ニ怯懦上已ムヲ得ザル者或
ハ政黨ノ何物タルヲ解セザル者或ハ日報見議員等ア

リラ面竟ニ勝ヲ有タル者ナカラズ併シ有議合ニ法定
 人員ニ足ラズ休会ニ休会ヲ重ネツアレバ未ダハ事實
 ナク意見ヲ得ザンニ要スルハ是等ノ議員ニ政見ナク定見
 ナキ不安定ノ議員ナリハ国民党ニテ操縦其宜シキ
 ヲ得ハ恐ルニ足ラザンベシ
 是ヲ要スルニ宋教仁ノ死ハ国民党ニ所大打撃
 シルト共ニ多クノ影響ヲ與フベキ事實ナルベシ
 ド未ダ当地ニ於テハ具体例ニ何等ノ反響ヲモ認ム
 能ハズ只国民党中ニ宋教仁ノ死ハ多ク共和
 黨カ暗裡煽動使囂セシ結果ナラントノ信念ヲ有
 スル者ナカラズ為テ黨外共和黨ニ對シ惡
 感情ヲ抱キ居ルハ將來面黨ノ競争ニ層激
 甚ヲ加フルニ至ルベシ

以上

附屬書類添附

大正二年四月廿七日發

主務政務局

紙添

受08613號

公第一一四號

大正二年四月十一日

在清國

特余全權公使伊集院彦吉

外務大臣男爵牧野伸顯殿

取調局

宋教仁暗殺事件犯人引渡
關スル件

本件之關シ三月廿七日付テ外交部ヨリ首席公使ニ宛テ別紙甲号寫ノ通り申越有之タルニ對シ
外交吏ニテハ三月廿一日會議ノ結果四月一日付テ別紙乙号寫ノ通り回答致シ英右御参考迄
此段申進候教具
在北京日本公使館

12
号
Copy.

Translation.

Wai Chiao Pu to Dean of Diplomatic Body.

Letter.

March 27, 1913

Sir,

With reference to the murder of Sung Chiao Jen, the scene of the crime is situated in Chinese territory and the guilty parties and the victim are all Chinese subjects; the murderers Wu Fu-min and others together with Ying Kuei-hsing and all the witnesses should therefore be remitted to the Chinese authorities to be dealt with.

I have the honour to request that the Consular Body at Shanghai may be instructed to act accordingly.

Compliments.

(Seal of the Minister of Foreign Affairs).

Copy
DEAN TO WAI CHIAO PU.

2
13
April 1, 1913.

The Dean has the honour to acknowledge the receipt of the Wai Chiao Pu's letter of the 27th March with reference to the murder of Sung Chiao-jen in which they request that the murderer Wu Fu-min and others, together with Ying Kuei-hsing and all the witnesses, should be remitted to the Chinese Authorities on the ground that the crime was committed on Chinese territory and that the guilty parties and the victim are all Chinese subjects.

The Dean is authorised by his Colleagues to state in reply that Wu Fu-min is in the hands of the authorities of the French Concession at Shanghai and that his case should be treated separately with His Excellency the French Minister.

As to Ying Kuei-hsing, who is in the hands of the authorities of the International Settlement, the Dean is instructed to say that the Diplomatic Body have no objection to his being handed over to the Chinese authorities provided a prima facie case of his guilt is established to the satisfaction of the Mixed Court of the International Settlement.